

## 第6章 事業のモニタリングと評価における WID/ジェンダー視点

### 本章のねらい

WID配慮、ジェンダー配慮という言葉聞くことが多くなった。具体的にはどのようなものなのか、どのような配慮をする必要があるのだろうか。本章では、農林業プロジェクトの実際の事例をもとに、WID/ジェンダー配慮の重要性、留意すべきポイントを明らかにするとともに、WID/ジェンダー概念が生まれた背景やWID/ジェンダー・アプローチの変遷を紹介する。

### 1. モニタリング・評価とは

技術協力は生活・社会の変化を引き起こす。それはプロジェクトが期待したような変化であることもあれば、予想外の成果をみることもあるし、反対に思わぬ問題を引き起こすこともある。予想外の成果や思わぬ問題発生は、プロジェクト計画段階での、現状把握に不十分な点があったからだとも言える。

モニタリングと評価は、プロジェクトが効率良く資源を投入し、計画に基づいて目的にかなった成果を出しているかを確認する作業監理的な役割とともに、プロジェクト内部での学習と内容の改善を目的としている。近年は、後者の目的の重要性が認められている。モニタリングは、プロジェクトの進行途中で、継続的にプロジェクトの活動の進捗状況の確認とともに、その活動によってもたらされた変化を明らかにし、今後の方針を検討する材料を得るために行うものである。評価は、原則的にはプロジェクトの終了前及び終了後に、プロジェクト実施のプロセスやプロジェクトがもたらした成果を検証し、次の段階への発展のあり方を検討したり、類似のプロジェクトを実施するときの参考となる教訓を整理するために行われるものである。

## 6. モニタリング・評価

### (1) WID/ジェンダー視点をモニタリング・評価に 組み入れることのメリット

モニタリング・評価は、プロジェクトの失敗を見つけだし、出来不出来に点数をつける審判のようにも捉えられがちである。しかし前述のように、実際はこれまでの経験からの教訓を整理し、次の計画への参考となるものを導き出すことが大きな目的である。プロジェクトのモニタリング・評価でWID/ジェンダー視点を組み込むのも、この視点を組み入れることにより、プロジェクトのインパクトをより明確に把握でき、より住民の実態に即したきめの細かい教訓が得られ、プロジェクトがより良いものになることを可能とするからである。

WID/ジェンダーの視点が組み込まれることによってもたらさせるメリットは大きく分けて以下の3点になるだろう。

- ①農業分野では女性も実際は生産者としての重要な役割を果たしているため、そのような女性からの情報、意見は、プロジェクトの内容をより充実したものにするための条件となる。
- ②生産のみならず生活を担っている女性の声を反映させることにより、農村生活全般への総合的な視点によるプロジェクトの反省と今後の計画策定ができる。
- ③文化や社会制度上男性とは異なる立場にある女性に対して配慮することで、プロジェクトの効果がより平等かつ公平に当該地域に裨益するようにできる。

#### Box 6.1 モニタリング・評価実施の際のチェック項目

- 評価指標及び収集方法が関係者で合意されているか？
- 評価の目的ははっきりしており、それが関係者に納得されているか？
- だれが評価の報告を受け取り、どのように利用するかが明らかにされているか？
- 評価報告をフォローアップする用意があるか？
- さまざまな関係者の間で、評価に対する議論や交渉の場、さらなる活動計画などを話し合う用意があるか？
- 評価報告を多様なプロジェクトの関係者（非識字者や他の言語を使用する民族など）に伝えるための手法は適切か？
- 評価報告書が完成する以前に、プロジェクト関係者と評価チームの間での議論の場が用意されているか？

(Marsden, Oakley and Pratt, 1994を参考に作成)

## Box 6.2 モニタリング・評価システムへのWID/ジェンダー要素の組み入れ

## ●モニタリング・評価の設計

- ・プロジェクトのモニタリング・評価システムは、女性に対する影響の測定を意識して含めているか
- ・モニタリング・評価では、女性の活動現状分析、アクセス・コントロール分析の内容を更新するためのデータ収集を行う用意があるか
- ・モニタリング・評価の設計段階に女性は含まれているか

## ●データ収集・分析

- ・データは、プロジェクトが適切な時期に内容を修正できるような十分な頻度で収集されているか
- ・データは、プロジェクトのスタッフや受益者に対して、理解しやすい形で、内容の修正のために適切なタイミングでフィードバックされているか
- ・女性は、データの収集やその分析・解釈の段階で参加しているか
- ・他の類似プロジェクトの計画策定のための参考となるようにデータは分析されているか
- ・女性と開発について重点とすべき分野が明らかにされているか

(Valadez and Bamberger, 1994)

## (2) 計画段階でWID/ジェンダー視点が組み込まれた評価の指標を設定している場合としていない場合

計画の段階から、プロジェクトの成果を測るための指標の中にWID/ジェンダーの視点が十分入っていることが望ましいが、計画当時は認識が十分でなかったために、指標にWID/ジェンダー視点が十分組み込めていないこともある。また、計画時点で十分調査しWID/ジェンダーの状況を把握できたと思っても、プロジェクトを実施していく中で、直面する思わぬ問題や、新たにわかってきた事実などは必ず出てくる。

そこで、当初設定した指標の値の変化を確認することに加えて、それも含めた、地域住民の変化やプロジェクトが与えた影響について、相互の関連性を見ながら、再考することが必要である。それにより、プロジェクト計画当初よりも深い認識で、地域のWID・ジェンダーの課題、プロジェクトの取るべき方策が見えてくるだろうし、より良い指標の再設定も可能となるだろう。

新たな発見や、失敗からの教訓を生かすモニタリング・評価を

### (3) モニタリング・評価の主体は誰か？

モニタリング・評価には、プロジェクトの実施主体によるものと、受け入れ国政府や援助機関によるものがある。モニタリング・評価の主体（オーナーシップ）がどこにあるかによってモニタリング・評価の方法も異なってくる。またそれはプロジェクトの形態によっても異なるだろう。ただ、基本として重要なのは、可能な限り公開性をもったプロセスと、そこからの報告のフィードバックである。また、女性や貧困者、少数民族などの地域社会での少数者の実質的な参加を確保することが重要となる。

#### ① プロジェクトの実施主体によるモニタリング・評価

これは、プロジェクトに実際に関与する人々が自分たちの活動を振り返るためにおこなうものであり、プロジェクト内での意思疎通を図る材料ともなる。ただ、実施主体によるものであっても、それがプロジェクトオフィサーによるものか、フィールドスタッフによるものか、住民参加型のものかによって、大きく異なってくる。

#### 住民自身によるモニタリング・評価

とくにプロジェクトが住民の直接的な参加によって進められているとき、住民自身によるモニタリング・評価の実施は有効であるし、重要だろう。モニタリング・評価の過程が公開性をもち、より多くの参加が確保されることにより、参加者のプロジェクトに対する主体性（ownership）、プロジェクトの地域性、参加者のプロジェクトへのアクセス、プロジェクトの持続性が高まる。

#### 現地スタッフによるモニタリング評価

実際の活動を担うフィールドスタッフ（あるいは普及員）やカウンターパートによるモニタリング・評価は不可欠である。それは、先ほども述べたように、プロジェクトへの主体性を高めることにもなる。また、現場に近いスタッフの参加により、より現実に即した評価指標の設定やデータの収集が可能となる。指標を自分たちで設定し、今後の活動のあり方を考える材料を自分たちの判断で収集し分析できるようになることはプロジェクトの持続性を高めることにつながるし、カウンターパート機関の組織強化にも役立つ。

プロジェクトへの  
主体性確保  
組織強化

WID/ジェンダー配慮の必要性がプロジェクトの全体を通して理解されるためには、スタッフ間の意識の共有、啓発が重要である。スタッフのジェンダー感受性が高められることによって、モニタリング・評価も、よりWID/ジェンダー視点が組み込まれたものになる。

スタッフの  
ジェンダー感受性  
を高める必要

#### 外部の専門性を生かす

実施主体によるモニタリング・評価は、現場の実感に近いモニタリング評価が可能だが、一方で客観的な視点に不足する危険性もある。そのため、ジェンダーや社会経済、文化人類学などを専門とする短期専門家などを呼ぶことにより、自分たちに不足すると思われる専門性からプロジェクトを見てもらうことも考えられる。

社会経済の  
専門家を招く

技術への関心に偏る危険性を防ぐためにも、農林業関連の活動を行っている他のドナーやNGOなどとの意見交換やネットワーキングは有効である。とくに北米やカナダなどの援助機関はWID/ジェンダー配慮について様々な経験をもっており、参考となる意見を得られるだろう。これはインフォーマルなものではあるが、自分たちの活動がどのような意味を持ち、どのような位置づけにあるかを相対視するにあたって有効である。また、地元の草の根型のNGOでは、農民男女が求める技術についての、有効な情報を提供してくれるだろう。

他の協力機関  
との意見交換  
：ネットワー  
キング

#### ③ ドナーや政府等による評価

JICAでは、JPCM (JICA Project Cycle Management) によるプロジェクトの策定、モニタリング、評価の手法を採用している。このJPCMにおけるWID/ジェンダー視点の取り入れについては、本章4で述べる。

## 2. モニタリング・評価へのWID／ジェンダー視点の組み入れ

農林業プロジェクトには、住民が直接参加するものと、普及員を対象にした研修や普及すべき技術を開発するような、地域住民に間接的に関わるものがある。いずれにしても、さまざまな社会経済的状況に置かれている地域住民男女の公平な参加（あるいは受益）が重要となるが、後者の形態のプロジェクトの場合、住民との関わりが間接的となるため、モニタリング・評価の視点は若干異なる。そこで、ここでは、その2タイプのプロジェクトに分け、モニタリング・評価においてWID／ジェンダー視点を組み入れる方策を考える。

### (1) 地域住民が直接参加するプロジェクトのモニタリング・評価

#### ① 地域住民の参加

##### 女性の参加

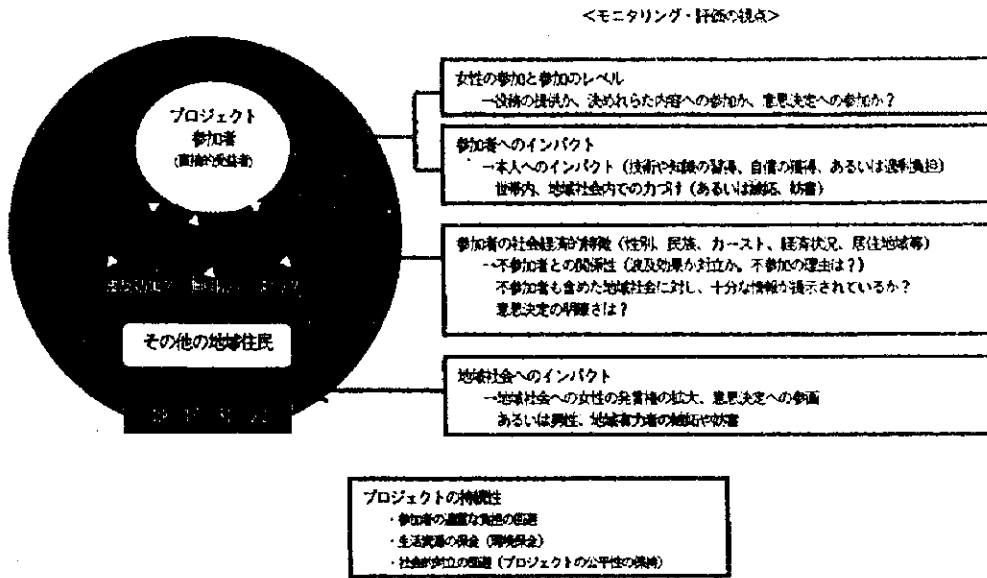
住民が直接参加する形態のプロジェクトについては、できるだけ多くの人々の実質的な参加がなされることが望ましい。女性の参加が少ない場合、その理由を検討し、どのような対策が必要となるかを考えることが必要となる。プログラムの内容、時間の設定、場所の設定、保育施設の整備など、女性が参加しやすいような配慮をどのようにする必要があるかを見るには、農村女性（及び男性）たちの生活の現状を知らなくてはならない。

参加者の多寡以上に重要なのが、その参加の度合いである。単なる役務提供なのか、それとも活動の計画などの意思決定に加わることができるのか。女性の意思決定への参加が十分でない場合、そのような状況にならざるを得ない理由を明らかにすることが必要である。

##### 女性参加者へのインパクト

女性参加者に対して、プロジェクトの活動はどのようなインパクトを与えているか。参加者本人自身へのインパクトに加え、参加者の世帯内や地域内での発言権、財産や資源などのアクセスやコントロールの状況がどのように変化したかを捉える。収入の増加等の数量的なデータに加えて、質的な変化として、家族員の意識の変化、自分たちの生活の状態の客観的判断力、家員へ

<地域住民が直接関与するプロジェクトの場合>



<地域住民が間接的に関与するプロジェクトの場合>

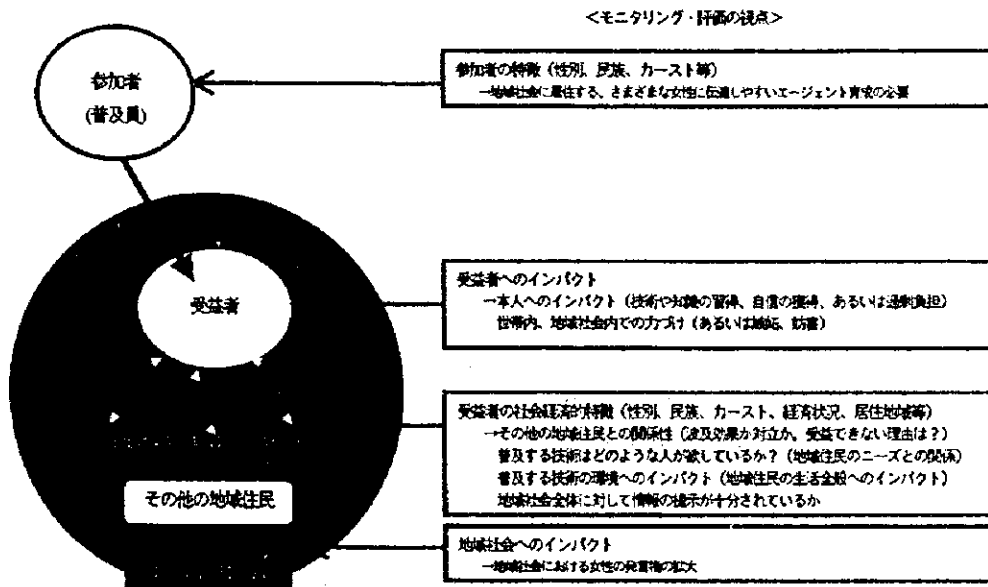
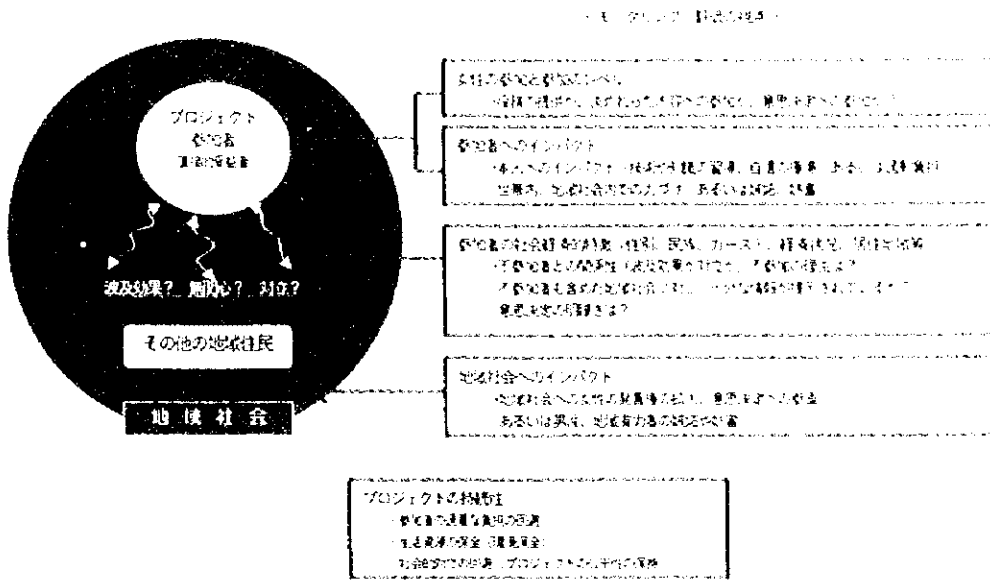


図6.1 WID/ジェンダー視点からのモニタリング・評価

地域住民が直接関与するプロジェクトの場合



地域住民が間接的に関与するプロジェクトの場合

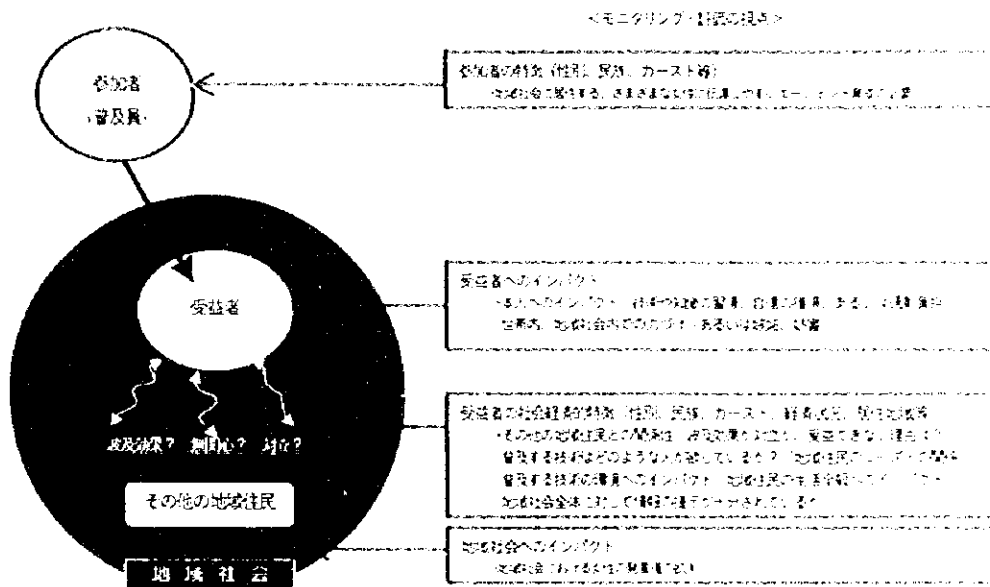


図6.1 WID/ジェンダ視点からのモニタリング・評価



## 6. モニタリング・評価

の労働負荷やしわ寄せの有無を把握する必要がある。日常活動の上にプロジェクトに参加したために過剰な負担が起きたり、生産活動や家事労働などに手が十分回らなくなって生活の質が低下したり、子供（しばしば娘）に家事の負担が及ぶなども起こりうる。また、これは世帯内での女性の発言権とも関係し合う問題である。また、あるいは力がついたがゆえに夫や地域の有力者などからの嫉妬や妨害を受けたりすることもあり得、このようなマイナスインパクトへの十分な日配りが求められる。

### 地域社会におけるプロジェクトの位置付け

地域には、性別のほかにも、民族、宗教、カースト、経済状況、居住地域など、さまざまな状況下に置かれた人々がいる。

その地域での生活に必要と考えられている資源を所有している（あるいはアクセスできる）人々と所有していない（あるいはアクセスできない）人々（一般に貧困層）がある。また、世帯の中でも、男性、女性、老人、子供といった家族員それぞれに課されている役割があり、それぞれに所有する／使用できる資源やニーズが異なる。そこで、プロジェクトが対象地域のどのような人々の参加（男女平等の参加、とくに貧困層への裨益の指標ともなりうる女性世帯主の参加）を得ることができたか、資源へのアクセスの限られている人々も参加できるような選択肢を用意することができたか（そのためには在来技術との良好な融合が求められる）が重要なポイントとなるだろう。

活動に参加しない人々は、なぜしないのか、参加できないためにプロジェクトへの反感をもっているのか、あるいはプロジェクトからの波及効果を得ているのか。プロジェクトが公共性をもつ限り、地域社会でのプロジェクトの位置付けを客観視すること、そしてプロジェクトの活動に関する情報を、不参加者も含めて地域社会に十分開示できているか、プロジェクトの意思決定が明解で公平であるかを常に気に留める必要がある。

### ② 女性のニーズとの合致

プロジェクトの活動の内容が、女性のニーズに合致したものとなっているかも検討の必要がある。関心がないと参加しないのは当然だからである。男性にとってもニーズに合致したものを提供することが必要なのはもちろんだが、女性の場合、生産技術（とくに高度な技術や機械を利用する技術）やそのための生産手段へのアクセスの機会が限られ、食品加工や手工芸など女性の伝統的な分野とみなされているもののみ用意されることも多い。しかし、女性も実際は農業を担う重要な役割を果たしており、生産技術への知識のニーズも高いことが多いのである。

## ③ プロジェクトの持続性

プロジェクトの持続性という観点から見ると、そのプロジェクトの活動を担う人々にとって過剰な負担を引き起こしていないか、プロジェクトの関与が環境保全（とくに女性が日々の確保を担っている生活資源）の面でどのような影響を及ぼしているか、地域社会での摩擦や対立が生じていないか、の三点がとくに重要になるだろう。

## ④ 住民自身による評価(参加型評価)

自分たちの生活の変化を、地域住民自身はどのように認識し評価しているか、という主体的な評価が重要である。住民男女が自分たちの生活の変化を客観的に評価できることによって、さまざまな開発行為が本質的に住民自身のものとなり得るからである。Box 6.3 は、給水プロジェクトがもたらした影響に関する男性と女性の評価の違いを示している。男性は、当初に設定した水位の上昇、取量の増加、という直接的かつ狭い範囲での指標でのみプロジェクトの成果を判断してしまっている。一方女性は、近隣の女性たちの生活と比較しながら、生活生産の両面における総合的な評価を与えている。特定の指標にとらわれずに、生活の成り立ちがどのように変化してきたかを大きくつかむことが重要なことなのである。

住民自身による  
評価の重要性

**Box 6.3 男性と女性の評価の違い**

干ばつが起りやすいインド・グジャラート州のある地域で、村人たちがアガ・カーン農村サービスプログラムの支援を受け、井戸の水を再補給するための浸透型タンクを建設した。不幸にしてこの地域は、最初に浸透型タンクをつくった1980年代終盤に、3年連続して干ばつを経験した。事前に設定された指標による評価では、井戸の水位が上がらなかったこと、作付け体系が変わらず作物の収量も上がらなかったことから、その村の男性たちは、プロジェクトによる成果は全くみられず失敗であったと結論づけた。

しかし一方女性たちは、その浸透型タンクのある地域の人は飲料水に困ることなく、最悪の干ばつの時にも牛が死ぬ被害がなかったので、プロジェクトは自分たちの生活の命綱であったと評価した。浸透型タンクのない他の地域の村人は水を求めて移住しなければならなかったが、彼女らはその必要に迫られることもなく、当時贅沢な行為であった水浴びや洗濯を定期的におこなうことができたことも、その評価の大きな理由であった。

(Gujit et al, 1998)

**Box 6.4. 女性の中の多様性に配慮した参加型手法による評価**

Save the Childrenはマリのプロジェクトで、女性への小規模金融プロジェクトへの参加型評価を実施した。

女性たちは彼ら自身の価値観で作った貧富ランキングによって、貧困層、富裕層とその中間層の3つのグループに分けられた。それぞれのグループは、いくつかの質問項目と小石などを使って資本・収入・支出などの象徴的变化を検討することにより、収入の変化、グループの自主的な運営、活動の持続性の評価と将来に向けて必要なインプットの検討を行った。将来に向けての提案は、女性の各グループから異なった視点が提供され、それらをもとに議論が進められた。

女性たちは参加型の評価を楽しみ、積極的に参加した。ただ、この評価では、互いに矛盾しあう内容についてのクロスチェックを十分行えなかったのは残念であった。

(Shah et al, 1995)

## (2) 住民が間接的に関与するプロジェクトのモニタリング・評価

### ① 研修などへの女性普及員の参加

農林業プロジェクトには、技術指導に関する研修やトレーニングが組み込まれているものも多い。まずは、トレーニングを受けた普及員の性別割合を明らかにする必要がある。女性普及員へのトレーニングは、とくに社会的慣習から農村女性が外部の男性と接触しにくい村や地域では、重要なものとなる。地域の女性たちに十分な情報や技術を伝達できるエージェント（プロモータ）の育成が重要なのである。

### ② 地域住民のニーズとの合致：開発普及した技術の妥当性

研究開発や研修によって普及を目指す技術を、どのような人が活用し、どのような人たちは活用できていないかに注目する必要がある。これには「地域住民」、あるいは「農民」と一括りにしない現状調査が重要である。それにより、女性のニーズや女性の技術普及へのアクセスの状況を把握することができるし、また地域社会での社会階層差（民族、経済状態など）によるアクセスの違いも明らかになる。

プロジェクトが普及を目指す技術が、必ずしも地域住民全員にとって役立つものでなければならないとは限らない。重要なのは、その技術が地域の人々にとってどのような位置づけにあったのか（どのような人の、どのような関心を集めているのか）、それが当初の計画と合致していたか、あるいは異なっているかを明らかにすることである。もし、プロジェクト計画当初の意に反して、地域の有力者などが主な受益者となってしまう、貧困者や女性などの関心が低かったりアクセスが限られている（技術の獲得自体に加えて、その技術を用いるための生産手段や資金等）ような場合、新たな貧富差の創出をどのようにして避けることができるかについて検討をすることが必要だろう。また、住民が直接参加するプロジェクトと同様に、プロジェクトに関する情報を公平に十分提供することが重要である。

ターゲットグループと  
その他の地域住民  
プロジェクトの受益  
者は誰か

### 3. モニタリング・評価の方法

#### (1) 生活の質的な変化を測定する指標

WID/ジェンダー視点を組み込むことにより、農村生活や農村女性がどのように変化したかを測定することは難しい。それは、質的な変化であり、収量が増えた、栽培面積が増えたというような数値で簡単に測定できるものではないからである。このような社会開発の質を測定する指標は、いまだ模索され、検討されつつ使用されている。

#### 地域に合った指標を探す

生活の向上を測る質的な指標は、それぞれの地域の文化や価値観も考慮した地域に適応した指標を見つけることが重要となる。Box 6.5のように、男性と女性でも関心のあり方が異なり、提示してくる指標も異なる。男性はどちらかという収量の増加、収入の向上などの、経済的な効果への関心が高いが、女性は、家族の健康、家族の食の確保とそのため飲料水や薪の確保など、生活に密着した指標を提示することも多い。男女双方からの意見を十分聞き、話し合うことにより、その地域にあった指標が選定され得るだろう。また、社会系の研究者、とくに文化人類学者のような、文化や生活様式の通訳者に参加してもらうことも有効である。

#### Box 6.5 男性と女性が示した評価の指標の違い

ニジェール川沿いで、飼料作物（キビ属の一種）再生のプロジェクトを進めてきたNGOのスタッフや周辺の援助機関のスタッフたちは、地域の人たちがこのプロジェクトに関心を持つのは、家畜のための飼料を乾季に十分確保したいからだろうと考えていた。そして、このプロジェクトの成果を測定する指標として住民が選んだものも、「通常よりも多くの牛乳が生産され、来客に牛乳をたくさん振舞うことができるようになること」であった。

しかし、その後、女性との議論の中から、異なった指標が提示された。それは、「子供に対して「いつもよりも多くのクンドウ（その飼料作物から作られる甘い飲み物）を飲むことができたか」を質問すること」であった。さらに議論を続ける中で、この指標は、プロジェクトのさまざまな側面を迅速に評価することができる唯一の指標であることがわかった。子供がクンドウを飲むことができるということは、男性がその飼料作物を家畜に十分与えている、ということを前提条件としているからである。

この事例は、男性と女性の優先順位の違いを明らかにしている。また、計画段階での男女双方との議論を十分行うことの重要性をも示している。  
(Marsden, Oakley and Pratt, 1994)

## Box 6.6 生活の質的な向上を測る指標の例 (1)

## (1) 収入に関する指標

- ・現金あるいは現物による収入の増加
- ・新しい収入源の獲得
- ・収入の安定化
- ・水汲み、薪や燃料集めの労働負担の減少

## (3) 自信の獲得

- ・家計管理に関する意思決定権の増大
- ・マーケティングに関する知識の増加
- ・貯蓄の増加
- ・公共あるいは民間の輸送機関の利用の増加
- ・金融業からの負債の減少
- ・依存状況の改善と、交渉力の増加

## (2) 消費に関する指標

- ・食生活の変化 (質と回数)
- ・教育、保健、食費以外の支出の増加
- ・生活環境の改善 (住居、衛生等)
- ・財産形成 (土地、農具、家畜等)
- ・嗜好品、贅沢品の獲得

- ・季節的な出稼ぎの減少
- ・病気(など、不慮の事態への対処能力の向上

## (4) 社会的移動性に関する指標

- ・公的機関利用への積極性の増加
- ・伝統的な階級障壁の取り除き
- ・意思決定過程への女性の参加の増加
- ・女性の移動性の増加

(Marsden, Oakley and Pratt, 1994)

## Box 6.7 生活の質的な向上を測る指標の例 (2)

## (1) 社会的指標

生活水準	給水施設や移動手段へのアクセス、住居のつくりや衛生環境、娯楽施設へのアクセス
貧困	貧困層の割合、失業率、女性世帯主の割合、5歳以下の低栄養児の割合
健康状態	栄養状態 (体重、罹病率、予防摂取率、公共の衛生施設
教育	5-15才の子供の就学率、識字率、成人教育へのアクセス、平均就学年数、農業普及員
の人数、教員の人	
ジェンダー	男女の労働時間、男女別の乳幼児死亡率、地域の各種委員会における女性の割合
男女の賃金格差、農業組合における女性組合員の割合と役員	
の割合	
新しい知識への態度	家族計画の普及率、社会階級を超えた結婚の割合

## (2) 政治的指標

生産手段の管理	補助金へのアクセス、灌漑用水の管理、土地所有形態と割合、政治の場への農民の
意見の反映 (農民代表の議員)	
収益の分配	貧困線以下の世帯数、社会階級やジェンダーによる公共機関へのアクセスの違い
リーダーシップ	農業普及の指導を受けた地域リーダーの数、対人口比政府職員の数、各種委員会への
女性の意見の反映 (女性の代表者の割合)、地域の組織への影響力	
社会への影響力	強制された結婚の数、警察や軍隊に所属する男性の数、監獄に収容されている人数

(Stephens, 1990<sup>2)</sup>)

### (2) ベースライン調査との関係

プロジェクトの関与による変化を知るには、当初活動地域でのベースライン調査を行っておくことが必要である。プロジェクト開始前の地域社会や地域住民の状況を把握しておくことにより、その後の変化を把握できるからである。プロジェクトの活動の進行とともに、人々の暮らしがどのように変化してきたかを把握する必要がある。世帯を担う女性と男性双方からの情報収集・意見聴取が重要となる。

Box6.3、Box6.5の事例からも、同一プロジェクトの評価の視点が男性と女性で大きく異なり、女性の視点多角的で生活実感にあふれたものであることが見て取れる。質問票による調査であれ、聞き取り調査であれ、男女別のデータ収集をしておかないと、プロジェクトが及ぼした効果や影響が、ジェンダーによってどのように異なっているかを把握することが困難になる。プロジェクトは地域住民全てに同じような影響を及ぼすわけではなく、その人の社会経済的状況などにより、受ける影響は異なるのである。

### (3) 開発プロセスの記録の重要性

WID/ジェンダー配慮は、開発における女性の参加・参画を促すプロセスとも言える。また、ジェンダー概念や規範は複雑な社会関係に埋め込まれており、計画当初では確認できなかった事実が実際の活動の中で見えてくることも多い。

WID/ジェンダー配慮の達成度を見るために、女性の参加率の増加などの数的な指標を用いることも確かに有効である。しかし、参加率が増加しないとしても、その理由をしっかりと調査し、記録に残しておくことは、今後への教訓としてもっと役に立つ。

プロジェクトが直面した課題、その解決に向けた方策の経緯をしっかりと文書化しておくことが非常に重要なのである。

#### (4) 情報収集方法とその分析手法

##### ① 最適な情報収集方法を見つけるには

モニタリング・評価における必要な情報収集の手段は、様々ある。プロジェクトが用意できる予算、時間的制約、プロジェクトが必要とするデータの精度などを考え併せて、収集方法を検討することが必要となる。

とくに精度については、その精確さだけに捕らわれて、多大の費用と時間をかけて不必要なほどの詳細なデータ収集を実施したものの、結局それが生かされることなく書棚にしまい込まれてしまう、といった事態を避ける注意が必要だろう。“（不精確さの）最適な無視”の考え方が、RRA（迅速農村調査）などで述べられるゆえんである。また、Box 6.8に見られるような、地域住民との指標づくりも有効な指標作りに役立つだろう。

#### Box 6.8 Imaginary Project（プロジェクトのイメージ化）

この手法は、地域住民が主体となってプロジェクトの指標を見出すものである。プロジェクトスタッフの誘導によるロールプレイを通して、外部からやってきた評価者に対して住民がどのようにして自分たちの村で実施されたプロジェクトの成果を説明するかを考えてもらう。プロジェクトがどのように進められたか、それはなぜか、他の地域でそれを実施するにはどのようなことが必要かを説明するのである。あわせて個々の活動、目的、評価の指標についても話し合い、「プロジェクトが成功した」と言うには何がわかっていなければいけないかを明らかにした。

このロールプレイの後で、プロジェクトは地域住民に対して彼／彼女ら自身の評価指標を作るように依頼し、プロジェクトからの押し付けでない、住民自身による評価の指標作りが行われたのである。

(Wigboldus et al. 1997)

##### ② 収集したデータをどのような目的で使用するのか

それには、収集したデータをどのような目的で使用するか、そのためにどのような分析ツールを使うかをまず決めた上での情報収集が重要となる。比較検討の材料となる情報収集か、プロジェクト監理やその後の計画策定に利用するのか。プロジェクトの収益性を明らかにしたいのか。外部（ドナー等）への説明責任を果たすことを目的とするか。対象住民に対するプロジェクトのインパクトを測定することを目的とするか。このような事項の整理、検討には評価グリッド（評価調査総括表）\*を事前に作成することが有効である。

また、情報収集分析自体が人々の開発のプロセスを含んでいるものもあり、それは参加型手法に特に顕著である。このような手法を活用することによって、モニタリング・評価をすること自体が、人々の力づけ（エンパワーメント）や自立性の獲得などに役立つものとなるのである。ただ、参加型手法は、多様な人々による意見交換、意見調整のプロセスを含むため、他の手法に比べて、十分な時間を要することに留意が必要である。

\*評価5項目（108参照）のそれぞれの項目ごとに確認すべき事項と情報入手先を特定したもの。



## 6. モニタリング・評価

### (5) プロジェクトのタイプとモニタリング・評価の方法

農林業プロジェクトには様々なタイプがある。大きくは研究開発プロジェクト、研修訓練プロジェクト、地域住民の参加による普及あるいは地域開発プロジェクトに分けられるだろうが、それぞれの形態によってWID/ジェンダー視点をモニタリング・評価に組み込む方法も異なるだろう。ここでは、さまざまな方法を紹介し、その中で採り入れられるものから採り入れてみていただきたい。

#### ① 抽出サンプル調査による波及効果のモニタリング・評価

研究開発プロジェクトや、研修訓練プロジェクトなどでは、開発した技術、あるいは普及しようとする技術が現場の農民男女によってどのように受け入れられているかを直接的に把握することは難しい。しかしプロジェクト自体の存在意義に大きく影響する本質的な問題である。

表 6.1 プロジェクトのタイプとモニタリング・評価の方法

プロジェクトのタイプ	地域住民（または最終的受益者）との距離	WID/ジェンダー組み込みのために考えられるモニタリング・評価の方法
研究開発プロジェクト	遠い、間接的	<ul style="list-style-type: none"> <li>抽出サンプル農民男女への調査（開発した技術の波及効果とニーズ把握）            参与観察的調査 <u>定性的調査</u>            配票調査 <u>定量的調査</u>            参加型手法（モニター農家として意見の交換） <u>定性的調査</u></li> </ul>
（普及員への）研修訓練プロジェクト	中間、間接的（普及員等をとおして関係）	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修参加者に対する調査（女性の参加状況、女性のニーズ把握）  <u>定性的調査</u> <u>定量的調査</u></li> <li>抽出サンプル研修不参加者への調査（参加資格を持ちながら参加しない人に対する調査） <u>定性的調査</u> <u>定量的調査</u></li> <li>抽出サンプル農民男女への調査（普及技術の波及効果とニーズ把握）            参与観察的調査 <u>定性的調査</u>            配票調査 <u>定量的調査</u>            参加型手法（モニター農家としての意見の交換） <u>定性的調査</u></li> </ul>
普及、地域開発プロジェクト	近い、直接的（住民の直接的参加）	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象住民についてのベースライン調査の反復 <u>量的調査</u></li> <li>グループインタビューなどによる地域の各社会グループからの社会的インパクトに関する意見聴取 <u>質的調査</u></li> <li>環境へのインパクト調査（専門家、住民参加型） <u>質的調査</u> <u>量的調査</u></li> <li>サンプル世帯に対する事例調査（生活の成り立ちの変化把握）            参与観察的調査 <u>質的調査</u>            住民参加型調査のデータとして <u>質的調査</u></li> <li>住民参加型モニタリング・評価 <u>質的調査</u></li> <li>普及員に対する調査 <u>質的調査</u> <u>量的調査</u></li> </ul>

現場での活川の実状を把握することは、研究開発や研修の内容の妥当性を検討するとともに、現場からのニーズを汲み上げ、研究開発や研修の内容をより充実させるために有効なものとなる。それには、農村の生産のありかたや暮らし方についてのある程度の知識を持つことが必要であるし、また、男性だけでなく女性からの意見聴取や情報収集をすることが求められる。

農村生活について  
の具体的な  
イメージをもつ  
ことの重要性

特定の活動地域をもたないこのようなタイプのプロジェクトの場合、サンプル的に農民への調査を実施することが考えられる。研修プロジェクトであれば、そのコースに参加した普及員や農民が活動する地域をサンプル地域とすることも考えられる。気候区分や民族区分で分け、それぞれの地域からサンプル農民男女を選択することも可能だろう。

サンプルの選定

調査の方法としては質問項目をあらかじめ用意した質問票による調査もあるが、農民の生産のありかた、暮らし方の全体的なイメージを持てるような参与観察的なものは、より多くの情報を提供してくれるだろう。男女双方からの意見を聞くことにより、ジェンダーによるニーズの違いの見落としを防ぐようにする。女性は農民としても重要な知識を持っている。また、そのサンプル農家の社会経済的状況（地域性、民族、経済状況、地域内での社会的地位など）を確認しておくことも必要である。

方法

当該地域の農業生産や生活の状況を把握した上で、開発した技術、研修を通して普及を図った技術がどのように受け入れられ、活用されているか、それがどのような変化をもたらしたか。また、活用されていない場合その理由は何か、を考える材料を得る。研修に参加しない人たち（特に男性の参加が多い場合の女性）に対して調査を行なうことにより、研修へのより幅広い参加を確保するための有効な情報を得ることができるだろう。

## ② モニター農民男女との共同による参加的手法

特定の農民男女をモニターとして設定し、彼/彼女らに開発した技術、普及を目指す技術を試みてもらうことも考えられる。農民参加型の方法をとることにより、彼/彼女らのもつ在来の技術や知識のフィードバックを得ながら、地域に適合した、よりよい技術の開発が期待されるだろう。このとき、モニター農民がどのような位置付けにあるか、地域の状況、社会経済状況、資源利用状況等を把握して、相対化できることが重要である。

モニター農民  
男女との協働による  
参加型手法も有効

## ③ 住民参加型のモニタリング・評価

住民の実質的な参加を促すには

実質的な住民の参加を図るには、専門的な内容や用語を使わず、多様な地域住民が理解を共有できるツールの使用が必要となり、視覚的な材料（絵、地図、写真、演劇など）が用いられている（第4章PRAの項を参照のこと）。

参加型手法をやればそれでいい、という免罪符的な使われ方もされやすいが、住民参加といっても、集会に参加できなかったり、参加しても自由な発言が抑制されるグループもあり、女性がそのような状態にあることも多い。しかし、そういう行動によって社会的な制裁を受けることを回避している面もあり、地域で発言力のある人々との良好な関係の維持の中での注意深い対応が必要となる（第5章参照のこと）。

**Box 6.9 評価における女性の実質的な参加を確保する**

パレスチナ農業復興支援委員会（PARC：Palestinian Agricultural Relief Committee）は、パレスチナのNGOである。これまで20年の間、ヨルダン川西岸とガザの農村で農業開発のプロジェクトをおこなってきた。PARCは貧困者と小農男女を対象とした活動を通じ、彼/彼女らが農業によって生計を立てることができるように支援してきた。この地域は、1967年以来イスラエルの占領下におかれ、人々は無力感におそわれていたが、一方パレスチナ人としてのアイデンティティやパレスチナ国家の建設に対する希望も強かった。

このような状況下でPARCは農村の人々の生活を支援し続けた。地域住民による自主的な委員会が村々につくられ、地域の意思決定を担った。PARCの活動内容は委員会によってニーズが明らかにされ、彼/彼女ら自身によって実施された。その後住民による委員会はPARCから離れ、独立した組織となった。

そこで、PARCは新しい活動の形を模索することが必要となり、参加型手法の開発を始めたのである。またその一方で、自分たちの活動のインパクトを測定するとともに、その経験から学ぶことへの関心がPARC自身及びドナー機関で高まり、評価を実施することになった。

住民はPARCの活動に非常に深く関与していたが、当初の評価においては、彼/彼女らは情報源として活用されたのみで意思決定に関する部分での中心的な役割は相わなかった。評価手法は、質問票によるデータ収集が中心だったが、PARCはすぐにその手法の限界を理解し、参加的な手法による評価を試みた。

参加型評価では、スタッフと地域住民の対話が必要である。コミュニティや関係グループとのワークショップの開催はその意味で有効であり、特に女性の対等な発言を可能とした。パレスチナ農村の伝統を慮して、男性と女性で別々に会合をもった。ある村での評価では、男性たちが一方的に女性の貢献を決めつけてしまった。しかし女性たちは、自分たちの果たした役割を自分たち自身で定義し直した。男性たちは、女性たちの見解に納得し、彼女らが活動の多くの部分を担ったと結論した。男性たちは、評価における女性の参加に賛同し、さらには、男性によって占められている村落調整委員会に女性が参加できる方策を検討するに至った。

(Symes et al, 1998)

力づけ（エンパワーメント）の過程として

女性、少数民族、貧困者のような社会的に弱い立場に置かれた人たちの力づけの過程を確認するために、参加型のモニタリング・評価手法が活用されることもある。Box6.10のボリビアの事例では、目標の達成度を指標で測定するのではなく、参加メンバーが自分たちの活動の変化を記録する中で、自分たちの足跡を振り返り、学習していくことを第一の目的としている。

Box 6.10 自分たちの活動を記録に残す

ボリビアのコチャバンバ県のプナタ郡開発センターは、地域の農民女性たちとの活動を行っている。女性たちは多忙さ、地域での発言権のなさなどから、このようなグループの活動を経験したことがほとんどなかった。また、NGOのような外部者に対する警戒心も非常に強かった。そこで、開発センターは、ともに学び考えていくという姿勢で女性たちに働きかけ、コムダ（集落）単位で女性のグループが作られていった。女性たちは絵などを用いた参加型手法によって村の状況や自分たちの生活を認識し、自分たちで解決できることから動き始めている。開発センターは、それぞれのグループが活動している様子について写真やイラストを交えながら隔月に壁新聞を作り、それぞれのコムダの中に貼るようにしている。他のグループの女性たちのやっていることを知ることもでき、また無料で見ることができるところから、女性たちに好評である。

女性たちは、「自分たちが今までやってきたことを忘れたくない」と思い、これまでの自分たちの活動をまとめるような冊子の作成を開発センターに依頼してきた。その要望に応え、「組織のリーダーシップと管理」というタイトルの小冊子が作成されている。女性たちはアルファベットを讀めないため、イラストなどを豊富に使う形で、「自分たちの権利」、「組織作りとは」、「参加の意味」、「大衆参加法とは」などの内容についてまとめ、メンバーの女性たちに配布している。

(JICA基礎調査、1997)

HADP PROJECT, MAE JAN VILLAGE						
village group community activities Jan-Jun 1990	clean village	YOUTH ACTION CENTER	village history	family planning	Home garden	Comm. by women
1		✓		✓		
2	✓				✓	
3			✓			✓

GROUP DYNAMICS AND GROUP WORK WALL CHART												
Weaving group - NONG TUM										1990		
Activities	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sept	Oct	Nov	Dec
1. General progress in group work	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
2. Participation in terms of group discussion and contributions to group ideas	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
3. Acceptance and comments about products in the market.	●			●	●	●	●	●	●			
4. Quality of group work in terms of contributions made in kind, or labour and the final result e.g. temple fair, youth competition	●	●	●	●	●	●	●	●	●			

● Well done, good satisfactory      ● Fairly well done      o.k      ● Poorly done, needs improvement

図6.2参加型モニタリング・評価の事例（顔の表情や●の大きさで、達成度を表現する）  
(Stephens,1990)、(Stephens,1990)

#### 4. JPCMにおけるモニタリング・評価と WID/ジェンダー視点

最後に、JICAが現在行っている事業評価（評価5項目）と事業管理（JPCM）に、これまで本章で説明してきたWID/ジェンダー視点の組み入れを行って整理してみることにする。

JPCMでは、対象地域の直面する課題の整理（問題分析）、その【原因-結果】関係を【手段-目的】関係に肯定的表現に作り直した目的系図をもとに、プロジェクトの手段と目的を設定したプロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）を作成している。このPDMでは、①プロジェクトの直接的な活動インプット、②インプットがもたらす直接的な成果、③そのプロジェクトが計画通りに実施されることにより達成が期待されている開発効果の中期目標（プロジェクト目標）と、④プロジェクト目標が達成された後、最終的に達成されることが期待されている開発効果の長期目標（上位目標）の4つのレベルで、プロジェクトの活動、活動の達成度を測定する指標、目標の達成に必要な要件を整理している。

##### ●評価5項目とWID/ジェンダー配慮

JICAでは、OECDのDAC(Development Assistance Committee)で1991年に採択された5つの項目を用いて事業評価を行っている。各項目について、PDMの4つのレベルと組み合わせつつ、WID/ジェンダーの視点から解説すると以下のようなになるだろう（図6.3）。

- ①実施の効率性：活動と成果のレベルでの、WID/ジェンダー視点の組み込みが求められ、対象地域における男女別の役割やニーズが配慮されているかが重要となる。
- ②目標達成度：成果とプロジェクト目標の評価の段階で、女性などの社会的弱者グループがプロジェクトの便益を受けることができたかを見る。
- ③効果：プロジェクト目標と上位目標の段階で、プロジェクトが対象地域の特定な社会グループ（女性に代表される）に負の影響を与えていないか、また、それを避けるための方策が採られていたか。あるいは女性のエンパワーメント、ジェンダーの平等の推進に貢献したか。
- ④評価の妥当性：受け入れ国の、国家レベルでのWID政策や方針との整合性を見る必要があるだろう。

⑥自立発展性：活動、成果、プロジェクト目標、上位目標のそれぞれの段階で評価が求められる重要なものである。プロジェクトの対象地域の住民、とくに女性などの社会弱者がプロジェクトの目標や上位目標を理解し、意思決定プロセスに参加できていること、必要な技術や生産手段等の資源へのアクセスがあること、対象住民自身によるモニタリングや評価がおこなわれ、それが適正にプロジェクトにフィードバックしていることによって、プロジェクトの主体性を住民が持つことができるようになるからである。

	実施効率性 Efficiency 結果の達成度	目標達成度 Effectiveness プロジェクトの目標達成度	効果 Impact プロジェクトの他への影響	妥当性 Rationale プロジェクトの方向性及び妥当性	自立発展性 Sustainability プロジェクトの自立性
上位目標			●プロジェクトは対象社会、特定の社会グループに負の影響を与えてはいないか。あるいは負の影響を回避・緩和するための対策が組み込まれているか？	●プロジェクトのWIDもしくは社会/ジェンダー配慮の取り組み方は、対象国の国家開発計画、WIDマクロ政策、協力分野におけるWID政策と整合しているか？	●対象地域の社会構造及びジェンダーが考慮されており、女性及び社会弱者を含むターゲット・グループがプロジェクト目標、上位目標を理解し、意思決定プロセスに参加しているか？
プロジェクト目標		●女性や貧困層、マイノリティ・グループ等の社会的弱者がプロジェクトの利益を受けることができたか？	●プロジェクトは女性のエンパワーメントに貢献できたか？		●女性や社会的弱者が、プロジェクトにアクセスできるか？
成果	●対象地域におけるターゲットグループ別及び男女別の数値、ニーズが考慮された活動であるか？				●ターゲット・グループ自身の観察や視点がモニタリング・評価に採り入れられ、適切なフィードバックが行われているか？
活動					

図 6.3 JPCM における WID/ジェンダー配慮 (PDM と評価 5 項目)

5 自立発展性：活動、成果、プロジェクト目標、上位目標のそれぞれの段階で評価が求められる重要なものである。プロジェクトの対象地域の住民、とくに女性などの社会弱者がプロジェクトの目標や上位目標を理解し、意思決定プロセスに参加できていること、必要な技術や生産手段等の資源へのアクセスがあること、対象住民自身によるモニタリングや評価がおこなわれ、それが適正にプロジェクトにフィードバックしていることによって、プロジェクトの主体性を住民が持つことができるようになるからである。

	実施効率性 Efficiency 結果の達成度	目標達成度 Effectiveness プロジェクトの目標達成度	効果 Impact プロジェクトの他への影響	妥当性 Rationale プロジェクトの方向性及び妥当性	自立発展性 Sustainability プロジェクトの自立性
上位目標			<ul style="list-style-type: none"> <li>●プロジェクトは対象社会、特定の社会グループに負の影響を与えてはいないか、あるいは負の影響を回避・緩和するための方策が組み込まれていたか？</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象地域の社会構造及びジェンダーが考慮されており、女性及び社会的弱者を含むターゲット・グループがプロジェクト目標、上位目標を理解し、意思決定プロセスに参加しているか？</li> </ul>
プロジェクト目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>●女性や貧困層、マイノリティ・グループ等の社会的弱者がプロジェクトの便益を受けることができたか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プロジェクトは女性のエンパワーメントに貢献できたか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プロジェクトのWIDもしくは社会ノジェンダー配慮の取り組み方は、対象国の国家開発計画、WIDマクロ政策、協力分野におけるWID政策と整合しているか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●女性や社会的弱者が、プロジェクトにアクセスできるか？</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象地域におけるターゲットグループ別及び男女別の役割、ニーズが考慮された活動であるか？</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>●ターゲット・グループ自身の経験や視点がモニタリング・評価に採り入れられ、適切なフィードバックが行われているか？</li> </ul>
活動					

図 6.3 JPCM における WID/ジェンダー配慮 (PDM と評価 5 項目)





## 卷末資料



## 巻末資料

### 1. 女性の参加を促進するために

- (1) 生活改善に関する課題と対応
- (2) 農業改良に関する課題と対応
- (3) 共通する課題と対応
- (4) 援助体制に関する課題と対応

出典：国際協力事業団,1993,『農村生活改善のための女性の技術向上検討事業報告(第2年次)』、「第Ⅲ章 農村生活改善の課題と対応策」より

### 2. ジェンダーに配慮した農業・農村開発プロジェクトのプロジェクトサイクル各時点における留意事項

出典：国際協力事業団,1998,『農村生活改善のための女性に配慮した普及活動検討事業～エンパワーメントを重視した農業・農村開発の新しい進め方～』、<Appendix II>より

# 1. 女性の参加を促進するために

## (1) 生活改善に関する課題と対応策

課 題	背景・問題点	直接的対応策	関連対応策
食生活改善	○旱魃や洪水の被災地や難民地域では、主食が不足し飢餓が発生する場合がある。食料が不足すると、女性は自分の分を子供に食べさせる傾向がある。	○緊急時に食料や医薬品を供与する緊急援助が、効果的である。	○緊急事態の発生にそなえ、食料増産を行い、食料を備蓄する手段を講じる。
	○飢餓に至らないまでも、最貧層では、食料・栄養不足が問題である。男性の食事が最優先される傾向がある。	○最貧層への社会福祉の充実や、最貧層向けの雇用や所得の創出を行う。	○長期的に食料不足が起こらないように持続可能な方法で食料増産を心掛ける。
	○主食が足りていても、食事内容に変化が乏しく、副食が限られている。	○食事内容・栄養を改善するように料理講習を開き、野菜や蛋白質の摂取を奨励する。素材が豊富な時に保存食を作る。	○料理に素材を提供するために野菜栽培を行う。蛋白質に関しては、養鶏、養魚、豆科作物栽培を奨励する。高蛋白品種の改良研究に関連。
炊事改良	○炊事に時間がかかる。	○手間のかからない簡易食を考案したり、農繁期の共同炊事を奨励する。	○現地の嗜好に合わせた料理の研究。栄養改善の料理講習と関連。
	○炊事を座ったり、中腰で行っている場合が多い。	○動きやすく、立って炊事できるよう炊事場を改良する。	○かまど、水槽、貯蔵庫の改良と関連。
	○かまどの燃料効率が悪い。	○かまどの改良が必要。室内の場合は、煙がこもらない措置が必要。	○炊事場の改良と関連。
	○炊事燃料とする薪の収集は、時間のかかる重労働である。	○薪炭用樹木の植林と農家の保有地での栽培を促進する。集めた薪を運ぶ道具（一輪車等）の考案・開発を行う。	○薪炭用樹木が果樹や飼料木だと農家にとって好都合。農業に林業を組み合わせたアクロ・フォレストリーの提唱に関連。防風林にも薪炭用樹木を用いる。運搬用具の供与や購入資金への信用提供。
	○アフリカでは食料貯蔵庫にネズミの害が発生している。	○殺鼠剤でなくネズミトリを考案する。食料貯蔵庫の改良。	○住宅改善に関連。食料貯蔵庫改良用の信用提供。
食品加工	○食品加工（調製、製粉等）に時間がかかる。	○風水力利用の食品加工。安価な加工設備を考案する。	○素材提供のための食料作物、野菜等の栽培。養鶏、養魚。
	○収穫物の加工は主に女性が担当している。日常の食事での蛋白源として豆類への依存が高い。	○豆類加工の技術協力は、その販売が可能なら女性の収入増加や地位向上に結び付く。	○高蛋白品種の改良研究に関連。加工機器の供与や購入のための農業信用提供。加工食品の料理講習。
飲料水の確保	○水汲みは時間のかかる重労働である。	○男女の意見を聞いて水道設置や井戸掘りを行う。	○井戸の管理・修理は男女で行うようにし、そのための訓練を男女に実施。水道や井戸の部品の調達。
	○分散して居住している地区では、井戸の効果は一部の住民にしかない。	○利用者が多い川の水汲み場の整備（アクセス道路の舗装、水汲み場のコンクリート処理等）が効果的な場合もある。	○川は多目的（灌漑用水、水汲み、洗濯、水浴、釣り、家畜の洗い場等）に使われるので、総合的な河川開発・管理が必要。
	○頭上に載せたり、背負ったり、手で持って水を運び、それを家庭内の水槽に溜めている。	○水運び用具（容器、一輪車等）の改善も作業を楽にする。家庭内の水保存方法にも目を向ける。	○自転車・リヤカーも含めた交通・運搬手段改良策に関連。衛生的で使いやすく水槽を改良するのは炊事場改良の一部である。
住宅改善	○現地で手に入りやすい材料を使うため風水害に耐久性が乏しい場合がある。ただし、外国人がモデル住宅を建てても現地に受け入れられないことがある。	○住宅の形態は文化的様式と関連するので、生活実態を把握し、現地の人々の住みやすさを主に配慮した上で、耐久性、清潔さ、効率性を基準に改善を行う。	○かまど、水槽、食料貯蔵庫、炊事場、トイレ、下水道等の改善と関連。住宅改善資金への信用供与。

課 題	背景・問題点	直接的対応策	関連対応策
洗濯の改良	○水道施設のない所での洗濯は重労働である。	○川の洗濯場を使いやすく改良する(アクセス道路、洗濯場のコンクリート処理等)。	○川は多目的に使われるので総合的な河川開発・管理が必要。
	○石鹸を用いない所もある。	○衛生的観点からは石鹸の自主製作・販売が奨励。	石鹸の奨励は、汚染防止の下水道設置や河川の浄化策と組み合わせる必要がある。
保健衛生	○生活排水は、垂れ流しか庭に撒かれている。	○下水道設置や衛生に対する講習会を行う。	○下水道設置は河川の浄化策と組み合わせる必要がある。
	○トイレが不衛生だったり、川を使用する国がある。	○トイレがない所ではトイレを作る。衛生の重要性を啓蒙し、トイレを清潔にするように勧告する。	○トイレの位置は、井戸や河川の水汲み場から遠ざける。
	○ゴキブリ、ハエ、カが多い。	○ゴキブリ対策にハウサン団子。ハエ、カに共同駆除を行う。その他の害虫(ダニ、ノミ、虱等)の防除策も広める。	○農産物の病虫害に対する発生子予察・防除策とも関連する。
	○マラリヤ等の伝染病や寄生虫の被害がある。	○集団検診や保健婦の派遣等の医療プロジェクトを行う。	○医療関係者の養成や農村医療機関の質と量の充実、衛生講習による住民の啓蒙に関連。
	○医療機関が遠い。医薬品の入手が困難。	○応急手当の講習。集団検診で病気の早期発見に努力。	○医療関係者の養成や無医村対策、地域保健システム作りに関連。
	○家族計画を知っていても、避妊の実施率が低い。女性だけを対象に家族計画が行われる。	○男女を対象にした家族計画の講習及び器材の提供。ただし、国家政策や文化・習慣に配慮する。	○避妊だけを強調せず、母子の保健衛生やエイズ問題と関連させる。現地に即した健全な家族のあり方の考察・講習。
	○助産婦がいない地区もある。	○助産婦の養成。	○無医村対策、地域保健システム作りに関連。
衣料の改善	○服の数が少なく、汚れても着替える服が乏しい。	○ミシンによる改良作業着、子供服、婦人服の自主製作。ミンシンの供与。ミシン購入に必要な信用の供与。	○製作した衣服の販売。刺繍や染色を取り入れれば、農村工芸に結び付く。その際は市場開拓が必要。
農村工芸	○現金収入が乏しいが、農村には雇用機会がない。	○家事の合間に行える事(刺繍、染色、竹細工等)を考案し、技術向上を計る。	○原料から作ると収益も多い(養蚕、棉栽培等)。市場の開拓も必要である。
家計簿記帳	○日常生活費を管理していても、記録する習慣がなく、計画性が乏しい。	○家計簿の記帳と、家計の計画的運営を促す。	○家計簿記帳に必要な字と計算の教育(識字教育、成人教育)。
生活改善普及	○生活改善を主目的にした普及活動はまだ少なく、体制も不備な所が多い。	○普及事業への生活改善の組入れ、普及員の訓練、普及活動に必要な機器・教材の開発、女性普及員の増員を促す。	○普及の基になる生活改善技術の研究を行う。普及員への交通手段の提供を計画する。
生活改善技術研究	○現地に適した生活改善技術を研究する機関や人材がない。	○生活改善技術の研究所を設置し、生活改善技術の研究者を養成する。	○生活改善技術の研究機関と普及組織の連携を組織化する。
共同保育	○手のかかる子供がいると、労働に支障を来したり、家庭の外で行われる講習会等に参加できない。	○農繁期や、講習会等の開催時に、共同保育を行う。	○将来的には、保育園建設や保母養成も行うことを見込んでおく。
エネルギー改良	○電気や、その他の燃料が不足しているため、日の出と共に起き日没と共に寝る生活が多い。薪以外の燃料は入手が困難で値段が高い。	○経費が安い農村電化(風力、太陽、水力、バイオマス)計画を推進する。水力発電の場合、ダム建設による立退きや自然破壊の問題を慎重に配慮する。	○新消費が減れば、薪集めの主な責任者である女性の負担が軽減する。電化は、食品加工、農村工芸、情報獲得等にも効果を及ぼす。

(2) 農業改良に関する課題と対応策

課 題	背景・問題点	直接的対応策	関連対応策
基盤整備	○灌漑設備による収穫増は男女に利益を及ぼす。だが、灌漑水路を堤防で囲んだために、女性の川の利用(洗濯、水汲み等)が困難になった場合もある。	○灌漑工事をする場合、女性の川の利用が困難にならないように、洗濯等の用事で水路に降りることができる場所を一定間隔で水路に設置する。	○灌漑用に溜め池が作られた場合は、養魚池と兼用させる。水路にそって農道を建設する。灌漑地用の農法の普及と、その実行に必要な農業信用の提供。
	○収穫物の運搬は、耕うん機等の農業機械がない場合、主に女性の仕事になっている。	○荷物を運びやすいように、農道の拡張・整備を行う。	○農道に合わせた運搬手段(リヤカー等)の改良を行う。
農業労働負担の軽減	○農作物の播種、除草、収穫、貯蔵、加工や、家畜への給餌、給水、家畜小屋の清掃等への女性の労働参加が多い。	○男女を対象にした労働節約型の技術の普及を行う。女性の農作業の実態を調査し、普及の恩恵・効果が男女に及ぶように工夫する。農具の改良。男女対象の農業機械化。	○収穫増と農作業の労働負担の軽減に役立つ技術の研究・開発する。農業機械や農具の購入資金への信用提供は男女に平等に行う。
自給作物栽培の支援	○サブ・サハラ・アフリカでは、換金作物は男性が担当し、自給作物は女性が担当する傾向がある。しかし、普及の対象は換金作物の場合が多い。	○自給作物を対象にした農業改良普及を行う。	○自給作物を対象にした農業研究を行う。自給作物栽培を対象にした農業資機材の供与や購入資金への信用提供。
野菜栽培	○園芸や野菜栽培は主に女性の仕事である。	○野菜栽培に関する農業改良の技術指導を行う。	○野菜を使った料理講習。野菜販売の市場の開拓
	○家畜に食べられないように柵が必要である。	○有棘鉄線を供与し、女性も入手できるように配慮する。	○KR II の効果的利用。有棘鉄線購入用の信用提供。
	○灌水のための水の確保が必要である。	○野菜栽培を含めた畑作灌漑を考案・開発する。	○農業基盤整備に、野菜栽培への水の供給を組み込む。
樹木栽培	○家の周りの樹木の栽培は女性の仕事であり、薪炭用樹木、果樹、飼料木の栽培が求められている。果実が道端で売られ、女性の現金収入になることもある。	○薪炭用樹木、果樹、飼料木の栽培指導と苗木の提供。自給作物や野菜の栽培と組み合わせたアグロ・フォレストリーの奨励。	○用材伐採や耕地拡大が主原因である森林破壊で、薪集めを担当している女性が、最も影響を受けている。女性は森林の保護に関心が高いため、植林に協力してもらう。
養蚕	○養蚕は、女性の参加を必要とするし、女性の現金収入拡大に役立つ場合が多い。	○男女を対象とした養蚕プロジェクト。	○絹織物等の農村工芸に関連。農村工芸と結びつける場合は、市場開拓に力点を置く。
養鶏・養魚	○家の周りで行える鶏、アヒル、兎等の飼育(放飼)は女性の仕事である。	○養鶏(鶏舎)の普及。雛鳥や資機材の購入への信用提供。	○卵、鶏肉、内臓を使った料理講習。卵の市場開拓。卵の収集・販売用容器の製造。
	○溜池での養魚は、蛋白質摂取を助けるし、販売すれば現金収入を生む。	○海老を含む養魚(養魚油)の普及。稚魚や資機材の購入や、養魚池建設用資金への信用提供。	○魚を使った料理講習。魚の保存・加工(干物)。生魚や干物の市場開拓。容器の製造
農業改良普及	○女性の農業参加の実態が軽視され、普及の対象から外されていた。	○女性の農業参加の実態を反映した普及組織・普及内容の改善と、普及員の訓練。なお、普及組織改善の一環として、女性普及員の増員を促す。	○女性の農業参加の実態を反映した農業研究の促進と、普及との連携の強化。普及活動の活性化を促すため、普及員に交通手段を提供する。
農業研究	○女性の農作業や、女性が主に栽培する作物等を対象にした農業研究は少なかった。	○女性が担当する農作業・作物に焦点を当てた農業研究と研究者の養成。性別分業を含む営農システム研究の実施。	○農村女性の実態把握による研究課題の発掘。農業研究と普及との連携の強化。
土地保有制度	○土地は世帯主の男性が所有していることが多い。農地改革や入植事業で、法律上は平等とされていても、女性世帯主が土地を所有できる例は少ない。	○男女平等な農地改革・入植事業の実施。不平等になった場合の修正措置の検討。	○農地改革・入植事業は、その土地の基盤整備や、普及事業、農業信用の提供と組み合わせた総合的農村開発としたほうが効果的である。

(3) 共通する課題と対応策

課 題	背景・問題点	直接的対応策	関連対応策
普及組織	○普及組織がない国もある。	○普及組織がない場合は、官民にこだわらず、技術や情報を男女の農民に伝達し、それら農民のニーズを把握し、それに応える組織の設置や運営に協力する。	○そのような組織が政府機関であった場合は、既存の他の政府機関との業務調整や協力関係の樹立。そのような組織がNGOであった場合は、関連する政府機関との協力関係の樹立。
	○普及組織があっても、農業改良普及と生活改善普及が整備されている国は少ない。	○普及組織が農業改良と生活改善を含むように改良する。	○農業改良と生活改善のそれぞれの担当普及員の訓練。
	○普及員の訓練や、普及活動に必要な機器・教材の作成を担当する機関がない場合がある。	○普及員の訓練や、普及活動に必要な機器・教材の作成を担当する機関の設置。	○農業改良と生活改善の双方の普及内容の研究の促進。
	○農業における女性の役割を反映させた普及活動が不十分である。普及員による女性を対象とする普及内容の研修が不十分である。女性の普及員も少ない。	○農業における女性の役割を反映させた普及員の訓練と意識改革の促進。女性普及員の増員の奨励。	○普及員の訓練機関の設置。政府関係者の意識改革のためのワークショップの開催。
	○普及員の交通手段が不足している。	○普及員への自転車、オートバイ、自動車の供与と現地生産。	○農村全体の交通・運搬手段の改良も計る。
	○農業における女性の役割を反映させた普及活動に必要な機器・教材がない。	○農業における女性の役割を反映させた普及活動に必要な機器・教材の現地での作製。	○農業改良と生活改善の双方の普及内容の研究の促進。教材の開発。
	○普及情報の伝達手段が限られている。人々のマスメディアへの関心は高い。	○普及でのマスメディアの利用の促進。	○ラジオ・テレビの普及台数の増加を促す農村電化の促進。
	○公用語と生まれた時から話している母語が異なり、普及対象者が母語しか話せない場合がある。その場合、普及活動のために対象者の母語を話せる普及員を雇用する必要がある。	○公用語が通じない地方での普及活動の活発化のため、各地の普及対象者の母語を話せる普及員の雇用を促進する。それぞれの母語を用いた教材等を作成する。	○成人教育で公用語を扱う。相手国政府の少数民族政策の重点が、融和にあるのか保護にあるのかで普及対象者への対応も変わってくる。
情報提供手段	○東南アジアではラジオのある家が多い。裕福な農家にはテレビもあり、近所の人が見に集まる。	○農事放送の促進。視聴者が身近に感じられるような話題の提供。現地の技術改善経験者の成功談の取材。	○OWIDの啓蒙・宣伝活動と結び付けた放送技術の指導。情報の収集・整理。農事放送のコンテスト。
	○識字能力のある人には活字情報が効果的である。	○普及関係の雑誌の発行・配布を促進。	○読める人間を増やすための識字教育。情報の収集・整理。
	○技術改善情報は、親戚や近隣の人から入ることが多い。情報伝達は、マスコミより人伝ての方が有効である。	○キーファーマー、地域リーダーの養成。既存の情報網の利用。	○人伝ての情報伝達と、マスメディア・文字情報との連携を計る。情報の収集・整理。

成人教育	○農村女性の非識字率は高く、文字情報を活用できない場合が多い。	○実生活に役立つ識字教育を行う。	○実用的な情報を載せた普及関係の雑誌の発行。家計簿の記帳。
	○初等教育を終了できなかった人々もいる。	○実生活に役立つことを中心に、成人教育を行う。	○非識字者でも理解できるような普及活動を行うのに必要な機器・教材の開発・作製。
女性組織	○女性の社会的参加が乏しい場所では、プロジェクトに協力してもらえる適当な女性組織がない場合もある。	○そのような場合は、女性組織の結成を援助する。	○女性組織の運営資金を提供する農村信用。女性組織が活動するのに必要ならば集会場の建設。
	○適切な指導者の有無が、どんな組織でも存続の鍵となる。	○指導者の発掘・育成（指導者養成研修等）を行う。	○メンバー全員の教育と意識向上が指導者を支える。
	○女性組織が集まり活動する場所がない場合がある。	○集会場を作り、運営・管理に女性組織も加える。	○当該社会の男性の理解が必要である。
現地側の理解・意識向上	○相手国政府の理解がなければ、WIDプロジェクトは実行できない。	○政府関係者向けにWIDワークショップを開催する。相手国政府組織にWIDアドバイザーを派遣する。	○他の先進国や、近隣諸国の援助関係者を集めて国際会議を行うのも効果的である。
	○伝統的慣習と異なることを始めるには、当該社会の男性の理解が必要である。	○プロジェクト対象地区で、WIDに関する啓蒙・宣伝活動を行う。	○マスメディアを利用したWID啓蒙・宣伝活動。
	○女性だけを対象としたプロジェクトでは男性の協力が得にくい場合も考えられる。	○女性のみを対象としたプロジェクトと、男女を対象としたプロジェクトを、状況に応じて使いわけ。	○WID啓蒙・宣伝活動を通して、男性の理解を深めていく。
	○農村女性の技術向上を促すプロジェクトを実施するには、現地の女性の自発的参加が必要である。	○意識向上のための啓蒙・宣伝活動や、研修を行う。先進的事例が近隣にあれば、見学会を行う。	○マスメディアによる啓蒙・宣伝活動。WIDワークショップの開催。
農民組織（農協を含む）	○農民組織、農民グループ、農協等の、農民が集団的な利益を得るための組織がない場合もある。	○農業資機材や技術や信用の提供の受け皿となるように農民をまとめる。	○普及組織や農業信用機関との連携を計る。
	○農民組織等がある場合、参加者は主に男性世帯主であることが多い。	○男女平等に参加するように促す。	○WID啓蒙・宣伝活動を通して、男性の理解を深めていく。
	○農協に婦人部、青年部がない場合もある。	○農協婦人部、青年部の設置と活動の明確化。	○婦人部、青年部それぞれの指導者育成が必要。
信用提供	○農村女性は担保になるものを持っていないことが多く、信用を得る機会が少ない。	○女性向けの農業・農村信用を支援する。	○資金連用や家計簿記帳の指導と関連。
交通・輸送手段	○水汲み、薪集め、収穫物運搬等の輸送作業は、女性の分担であることが多い。運搬は、頭上に載せたり、背負ったり、手で持っている。	○運搬作業がしやすい女性用自転車、リヤカー、一輪車等の現地生産を促進する。	○女性用自転車、リヤカー、一輪車等が通れるように農道を改良する。運搬用具購入に信用を提供する。



(4) 援助体制に関する課題と対応策

課 題	背景・問題点	直接的対応策	関連対応策
情報収集	<p>○開発途上国の農村女性の生活や労働条件、社会的・法的状況等に関する実態把握が必要である。しかし、状況は、場所によって異なり、正確な把握が難しい。ターゲット・グループの設定や、ニーズの把握、プロジェクトの効果測定のための情報が不足している。</p>	<p>○在外事務所へ常駐のWID専門家を配属し情報収集を行わせるか、事前調査で長期調査員を派遣する。また、現地の大学・研究機関・有識者による女性に関する研究・調査を支援し、現地のニーズ把握に活用するのも効果的である。</p>	<p>○WID専門家の養成を行う。WIDの協力体制を強化する。日本にWID情報収集機関を設置し、国際機関や他の先進国と情報交換の協定を結ぶ。</p>
	<p>○農村女性を対象にした技術協力を行うには、草の根のニーズ把握が必要であるが、日本の援助は要請主義の立場をとっている。草の根のニーズ把握と要請主義の調整が必要になっている。</p>	<p>○要請後に長期の事前調査団を派遣。または、小規模な予備的援助をしながらニーズ把握を行い、その後で本格的援助を行う。あるいは、常にニーズを把握しておけるような体制を作る。</p>	<p>○事前調査団やプロジェクト・チームに参加するWID専門家の養成。在外事務所への常駐のWID専門家の配属。実態やニーズの把握への現地の機関・個人の協力の確保。</p>
	<p>○技術改善の受入れに、現地の風習・慣習が大きく影響する。世帯の恒常的な所得増大に繋がると慣習も変えられる場合がある。</p>	<p>○技術改善を阻害するような風習・慣習がないかを調査し、その影響を緩和できる方法があるのかないかを検討する。</p>	<p>○現地社会の理解を得るための啓蒙・宣伝。マスコミの利用。WIDのセミナーの開催。</p>
援助機関	<p>○WIDプロジェクトの遂行を円滑化するためにも援助機関側も女性の地位向上に努力していることを相手国政府側に示す必要がある。</p>	<p>○在外事務所へ常駐のWID専門家を配属する。様々な分野で女性の専門家の採用を促進する。</p>	<p>○WID専門家の養成を行う。WID関係の予算・人員の充実が必要である。</p>
	<p>○調査団にWID専門家、又は他の専門分野の女性の専門家が加っていない場合がある。WID専門家でない、一面だけで、女性差別がないと判断したり、生産への女性の関与の実態を見逃す可能性がある。また、調査団に女性がいないと、現地の女性との意見交換が円滑となる。</p>	<p>○WID専門家を養成する。様々な分野での女性専門家の採用を促進する。</p>	<p>○WID関係の情報収集の充実と、WID関連のノウハウの整理・分類を進める。WID関係の予算・人員の充実が必要である。</p>
女性の参加	<p>○プロジェクトの企画、立案、実施、評価に関して現地の女性の参加が乏しい。</p>	<p>○プロジェクトの企画段階から現地の女性の参加を可能にする援助体制を作る。</p>	<p>○現地の女性に関する情報の把握。</p>
他の援助機関やNGOとの連携	<p>○同一地区での援助では国際機関や他の先進国の援助機関と協力内容を調整する必要がある。また、援他の先進国の援助機関やNGOが得意な分野があり、その分野にJICAとして手が回らなければ、援助効果を拡大するために共同して援助することも考えられる。</p>	<p>○国際機関や他の先進国の援助機関や、NGOとの連携を計る。</p>	<p>○国際機関や他の先進国の援助機関や、NGOが、何をどこで如何に行っているか、それぞれの得意な分野は何かについての情報収集・整理を行う。そのため、国際機関や他の先進国の援助機関や、NGOと頻繁な交流を行う。</p>

2. ジェンダーに配慮した農業・農村開発プロジェクトのプロジェクトサイクル各時点における留意事項

	対 応	内 容	社会・ジェンダー配慮にかかる留意事項
計画策定段階	プロジェクト形成段階	要請内容の検討が不十分な場合や、相手国政府から要請が出にくい場合、協力内容の妥当性や実施機関の案件実施能力・体制、波及効果等について相手国政府と協議し、優良案件を形成する	●ターゲットグループの明確化、セクター内のジェンダー配慮政策の確認。●ジェンダー配慮団員の配置。●ターゲット・グループのジェンダー分析(生産・生活の実態、所得・労働の分配、資源利用状況、情報へのアクセス等)●社会・ジェンダー指標の抽出
	企画調査員による調査	ア)特定セクターの案件発掘・形成、イ)援助実績が無いか、少ない国に対し援助スキームの理解促進、援助調整を行う、ウ)援助情報全般の収集・分析、エ)援助の重点課題の確認	●調査対象セクターの関連する社会・文化背景、ジェンダー状況を調査する。●当該セクターのジェンダー配慮政策を調査する。
	在外専門調査員	要請案件の周辺情報を収集し、協力対象機関の現状を把握する	●同上。●過去の調査員報告書及びT/Rを蓄積して記述する
	基礎調査	特定セクターにかかる開発ニーズや基礎情報を調査し、セクター別援助指針、協力の可能性の検討に利用する。	●過去の調査員報告書及びT/Rを蓄積して記述する●特定セクターにおけるジェンダー配慮政策、ジェンダー状況調査をT/Rに含める。
	新規要請案件の検討	国家開発計画とプロジェクト要請との整合性、要請の背景、ターゲットグループ、実施機関の事業実施能力、プロジェクトの実施可能性、専門家のリクルート、援助裨益効果のプラス面とマイナス面等を確認する。優良案件で一部背景・経緯等不明瞭な場合は、プロ形等で対応する。	●受益者層は明確か?●受益者はだれか?●男女双方、社会的に公平な受益・参加が確保されているか?●社会・ジェンダー配慮を行うための投入(調査、専門家配置)が計画されているか?●環境・女性課、WID専門家の知見の活用をしているか。
	プロジェクト確認調査、年次協議	我が国政府の援助方針と相手国政府の開発計画に関する政策対話を実施し、我が国の援助方針に適合する案件の採択を行うために必要な情報の入手や協議を行い、要請案件の優先順位と内容の確認等を行う。	●我が国のジェンダーガイドラインの説明・提示をする●我が国のジェンダー関連類似案件の紹介
プロジェクト形成協議	短期調査員(平成9年度までは長期調査員)	短期調査員による、プロジェクト開始前の準備に必要な、セクターに関する調査を行う。	●基本的なプロジェクト形成段階でのジェンダー確認項目が十分に調査されている上で、援助による負の効果を中心に調査する。
	社会ジェンダー調査(短期調査の一種)	プロジェクト予定地域の社会構造、ジェンダー、開発ニーズ、プロジェクト裨益効果の利害関係を社会・ジェンダー専門家が現地コンサルタントによる現地調査を有効に利用して調査する。	●新規要請案件検討後、採択案件が社会・ジェンダー調査を必要とするかの審査を受けて実施。●実施の時期(事前調査前か後か)の検討。●過去の調査員報告書及びT/Rを活用。●フィリピン農村生活改善研修強化計画では、この時点で農村生活総合調査(Base-line Survey)注1を実施している。
	事前調査	要請書やプロ形調査等の情報を確認し、案件の具体的実施にかかる事柄について相手国政府と協議する。さらに、専門的な見地から案件の実施に必要な調査を行う。事前調査団でPCM現地ワークショップを開催することもある。	●社会・ジェンダーの観点からの調査項目の洗い出し。●必要に応じてWID 配慮団員の配置、または、担当する団員を決める。●社会・ジェンダー調査の調査結果の活用。 ●社会・ジェンダー配慮し、農業・農村生活資源・技術活用状況を把握する農村生活総合調査の実施。  ●PCMワークショップ開催の場合には、参加者にターゲットの社会階層・男女が公平に参加でき、自由に発言できるよう配慮。●プロジェクトフレームワークの中で、社会・ジェンダー配慮事項を明確化する。 ●さらなる調査等のため、準備フェーズを必要とするか確認。
実施段階	実施協議調査	RD案を作成し、相手側政府担当機関と協議し、双方の合意を得て署名する。	●R/D、PDMの中に社会・ジェンダー配慮が明文化されているか?●その指標が設定されているか?●R/D、PDMの中に農村生活総合調査の実施が明記されているか?●プロジェクト運営機構の中に、社会・ジェンダー配慮の推進を監督する責任者が入っているか?・

実施段階 つづき	実施計画書	年次活動計画の作成	詳細な活動計画を作成し、先方と同意する。	●実施段階以降における農村生活総合調査の実施時期の確定。普及活動計画の策定(細かい社会・ジェンダー配慮のある普及活動計画の策定)。
		資金計画の作成	プロジェクト、プロジェクトを実施する上で必要となる現地業務費を積算する。	●社会・ジェンダー分析を実施するために必要な人員の派遣経費、ローカルコンサルタント備上経費、現地調査費が十分に計上されているか? ●準備フェーズを実施する場合は農村生活総合調査に係る項目を計上しているか?
		専門家人員配置計画の作成	各担当専門分野の専門家、調査団員を確定し、おおまかな派遣時期を計画する。	●社会・ジェンダー配慮担当の専門家または団員が配置されているか? 長期で当該分野の専門家を配置できない場合の対処法を留意しているか?
実施		プロジェクト運営	従来は、プロジェクト運営に必要な情報は、事前調査段階で調べていた。最近、住民参加型アプローチを必要とするプロジェクトでは、準備フェーズを実施する場合があります。プロジェクトの一環として住民調査等を実施する場合もある。	●コミュニケーション、住民との接触に社会・ジェンダー配慮をしているか? ●ボトムアップの情報収集を実施しているか?
		中間評価(協力開始3年目)	プロジェクト実施中にプロジェクト目標の達成度、事業実施上の問題点などを調査し、その後のプロジェクト運営管理にフィードバックする。	●社会・ジェンダー配慮の活動の具体的成果を確認し、必要に応じて計画を軌道修正する。●成果確認のため農村生活総合調査を実施する(この段階では成果は出にくいので、実情の取りまとめのみとする)。
評価段階	終了時評価	終了時評価(協力終了半年前)	プロジェクト終了時に、協力の実施効率、プロジェクト目標の達成度、裨益効果、持続的発展の可能性、協力期間の延長やF/Uの必要性を確認する。	●チェックリストを使用し、分野評価団員による評価を行う。●受益者層への裨益効果、プロジェクトへの参加の度合は、男女・階層でどのように現われているか? ●住民のエンパワメントの度合はどうか? ●開発効果が社会的公平さを伴っているか。C/P機関が社会・ジェンダー配慮手法を習得しているか。 ●上記確認事項を農村生活総合調査にて確認する。●あわせて新たなニーズの確認も行う。(地域住民のエンパワメントは、短期間で達成することは難しく、プロジェクト終了時に実施する農村生活総合調査にて必ずしもプラスの変化が確認されるとは限らない。しかしながら、住民の意識の変化や男女の役割等に発生する微妙な変化を無視しないためにも、プロジェクト終了時にプロジェクト開始時と同条件で、農村生活総合調査を実施することは有意義である。
	事後評価(案件の終了後一定期間の後に実施する評価)	事後評価(国別評価、特定テーマ評価、合同評価、在外事務所評価、事後現況調査、フォローアップ調査等)	当該国の援助の重点分野にJICAの協力がどのような効果をおげたかを、個々の案件別評価、重点課題別、セクター別、事業形態別等のテーマについて確認する。事後評価の種類により、セミナーを開催し、評価結果を関係者にフィードバックする場合もある。	●社会・ジェンダー配慮団員の配置。●受益者層への裨益効果、プロジェクトへの参加の度合は、男女・階層でどのように現われているか? ●住民のエンパワメントの度合はどうか? ●開発効果が社会的公平さを伴っているか? ●C/P機関に社会・ジェンダー配慮の手法が活用されているか。 ●必要に応じて社会・ジェンダー面の調査を行えるローカルコンサルを選定する。●開発効果の社会的側面、住民のエンパワメントの持続性、協力機関への社会・ジェンダー配慮能力の持続性を評価。

注) 農村生活総合調査(Baseline調査)「農村生活改善のための女性の技術向上検討事業(フェーズI・II)」により、提案された調査手法。生産面のみならず、生活面、男性の役割のみならず女性の役割を「ジェンダー別農作業カレンダー」、「生活資源カタログ調査」、「農家家計調査」等の手法で総合的に開発ニーズを明確にする。農村生活総合調査は、社会・ジェンダー視点をもとにした住民の資源認識およびその利活用技術の概要を短期間で把握すると同時に住民の生活環境や在来技術状況を把握することに特徴がある。社会・ジェンダー調査による社会、文化的要素と住民が保持する技術的要素をインターフェースする役割を果たすことができる。  
特にその中の「生活資源カタログ調査手法」は、社会的弱者や女性が担当してきた見えにくい技術を開発検討のテーブルにビジュアルに示すことにより、より具体的な問題の提示とその方向性を明らかにすることに貢献できる。



## 参考文献一覽



## 参考文献一覧

### <引用文献>

Abena D. F., 1991, *The Emancipation of Women, An African Perspective*, Ghana University Press, Accra

Bohol Training Center, 1997, *TSEP-RLRI Accomplishment Report, June 1996-February 1997*

Department of Agriculture Agricultural Training Institute Farmers Training Center Tagbilaran, Bohol, Philippines, 1997, *Training Services Enhancement Project for Rural Life Improvement; Accomplishment Report, June 1996-February 1997*

FAO, 1996, *Improving Extension Work with Rural Woman*, FAO, Rome

Feldsten, H.S. and Jiggins, J., 1994, *Tools for the Field: Methodologies Handbook for Gender Analysis in Agriculture*, Kumarian Press, Inc., Connecticut, USA

Gosling, L. and Edwards, M., 1995, *Toolkits, A Practical Guide to Assessment, Monitoring, Review and Evaluation*, Save the Children, London, UK

Guijt, I., Arevalo, M. and Saladores, K., 1998, 'Tracking change together', PLA Notes 31

Hamilton, C., Kaudia, A. and Gibbon, D., 1998, 'Participatory basic needs assessment with the interally displaced using well being ranking', 9-13, PLA Note 32

<http://www.fao.org/WAICENT/FAOINFO/SUSTDEV>より  
FOOD AND AGRICULTURE ORGANIZATION→Sustainable Development→People Women& Population→1995, FAO Plan of Action for Women in Development

<http://www.fao.org/WAICENT/FAOINFO/SUSTDEV>より  
FOOD AND AGRICULTURE ORGANIZATION→Sustainable Development→People Women& Population→1997, Gender: the key to sustainability and food security, French and Spanish

<http://www.fao.org/WAICENT/FAOINFO/SUSTDEV>より  
FOOD AND AGRICULTURE ORGANIZATION→Sustainable Development→People Women& Population→1998, SEAGA Field Handbook

<http://www.fao.org/WAICENT/FAOINFO/SUSTDEV>より  
FOOD AND AGRICULTURE ORGANIZATION→Sustainable Development→People Women & Population→Analysis→Women: Users, Preservers and Managers of Agro-Biodiversity, 1998, the Women in Development Service(SDWW) FAO Women and Pop

Japan International Cooperation Agency, 1997, 'Project Working Paper No.10 Introduction of Participatory Approach in KVFP's Extension Strategy, Extension Section, Kilimanjaro Village Forestry Project', Japan International Cooperation Agency, Tokyo

Khon Kaen University, 1987, *Proceedings of the 1985 International Conference on Rapid Rural Appraisal, Rural Systems Research Project and Farming Systems Research Project for Khon Kaen University*, Khon Kaen, Thailand

Khon Kaen university, *Proceeding of the 1985 International Conference on Rapid Raul Appraisal*, 1987

Koning,K., 1997, 'Drama as a discussion, 26', PLA Note 29

Marsden,D., Oakley,P. and Pratt,B., 1994, *Measuring the Process*, Pact Publications, New York

Moser,C.O.N., 1993, *Gender Planning and Development*, Routledge, London and New York

Mosse,D. with KRIBP Project team, 1995, 'Social analysis in Participatory rural development, 31', PLA Note 24

Mosse,D., 1995, 'Social Analysis in Participatory Rural Development', PLA Notes 24

Nickols,S.Y. and Srinivasan,K., 1989, *International Workshop on Women and Development: A Critical Appraisal of Household Level Research Methodologies*, M.S.University of Baroda, India and University of Illinois at Urbana-Champaign, U.S.A

Quisumbing,A.R., Brown,L.R., Feldstein,H.S., Haddad,L., and Pena,C., 1995, *Women: The Key to Food Security*

Rocheleau,D., 1987, 'The User Perspective and the Agroforestry Research and Action Agenda', *Agroforestry: Realities, Possibilities and Potentials*. H.L.Ghols, ed Dordrecht, The Netherlands: Martinus Nijhoff, D.R.Publishers

Russell,T., 1997, 'Pairwise ranking made easy, 25-26', PLA Note 28

Shah,P. and Shar,M.K., 1995, 'Participatory Methods: Precipitating or avoiding conflict?', PLA Notes 24

SNV TANZANIA<sup>a)</sup>, 1996, *Gender Review Project Report*

SNV TANZANIA<sup>b)</sup>, 1996, *TIP Traditional Irrigation Improvement Programme*



Stephens,A<sup>a)</sup>, 1990, *Regional Expert Consultation on Database for Women in Agriculture*, Regional Office for Asia and the Pacific(RAPA) Food and Agriculture Organization(FAO) of the United Nations, Bangkok, Thailand

Stephens,A<sup>b)</sup> ., 1990, *Taking Hold of Rural Life*, Food and Agriculture Organization of the United Nations Regional Office for Asia and the Pacific(RAPA), Bangkok, Thailand

Stephens,A.<sup>c)</sup>, 1990, *Women and Livestock Production in Asia and the South Pacific Region*, Craftsman Press, Bangkok, Thailand

Symes,J. and Jasser,S., 1998, 'Growing from the grassroots: building Participatory planning, monitoring and evaluation methods in PARC, 57-61', PLA Note 31

Thomas-Slayter,B., Esser,A.L. and Shields,M.D., 1993, *Tools of Gender Analysis: A Guide to Field Methods for Bringing Gender into Sustainable Resource Management*, Program for International Development and Social Change, Clark University, USA

United Nations, 1995, *The world's Women 1995: Trends and Statistics*, United Nations, New York

Valadez,J. and Bamberger,M., 1994, *Monitoring and evaluation social programs in developing countries: a handbook for policymakers, managers, and researchers*

Wigboldus,S. and Knisely,S., 1997, 'Towards a meaningful evaluation for project staff and villagers', PLA Notes 28

UNFPA, 1998, 未来のための食料: *Women, Population and Food Security*

池田恵子, 1998, ネパール村落振興・森林保全計画: W I D 専門家と他分野専門家の連携

川喜多二郎, 1967, 発想法, 中公新書

国際協力事業団, 1993, W I D 配慮における社会/ジェンダー分析手法調査報告書, 国際協力事業団, 東京

国際協力事業団, 1995, ネパール国西部山間部総合流域管理計画調査事前(予備・S/W協議)調査報告書

国際協力事業団, 1995, ネパール国西部山間部総合流域管理計画調査事前調査報告書

国際協力事業団, 1996, フィリピン共和国農村婦人地域特産物生産加工促進計画長期調査員報告書

国際協力事業団, 1996, 農村婦人地域特産物生産加工促進計画長期調査員報告書

国際協力事業団, 1998, 農村生活改善のための女性に配慮した普及活動検討事業～エンパワーメントを重視した農業・農村開発の新しい進め方～, 国際協力事業団, 東京

コスタ D.他, 伊田久美子訳, 1995, 『約束された発展? 国際債務政策と第三世界の女たち』イザラ書房, 東京, Costa,D., Costa,M. and Franca,G., 1993, 1995, *Donne e politiche del debito*, Franco Angeli, Milano, Italia,

国連開発計画, 1995, ジェンダーと人間開発, 国際協力出版界, 東京

富田祥之亮、吉野馨子, 1997, 生活資源カタログ手法 (第1報) : 調査手法の有効性と応用の可能性, 農村生活総合研究9号

<http://www.kj-method.co.jp/> (KJ法について)

広野良吉, 北谷勝秀, 恒川恵市, 椿秀洋 監修, 1997, UNDP人間開発報告書1997, 『貧困と人間開発』(日本語版), 国際協力出版会, 東京 *UNDP, Human Development Report, 1997, Oxford University Press*

マジュプリア, TC., 1988, 『ネパール・インドの聖なる植物』, 西岡直樹訳, 八坂書房

門間 敏幸編著, 1995, TN法: むらづくり支援システム実践事例集, 農林統計協会

吉野馨子、富田祥之亮、畑中初音, 1998, 生活資源カタログ手法 (第2報) : その適用と有効性—インドネシアとネパールでの試用から, 農村生活総合研究10号

### <参考文献>

Aaker, J. and Shumaker, J., 1994, *Looking Back and Looking Forward ... A Participatory Approach to Evaluation*, Heifer Project International, Arkansas, USA

Jeans, A., 1998, 'An enterprising approach to livelihood Strategize, p43', PLA Note 33

Messerschmidt, D.A., 1995, *Rapid Appraisal for Community Forestry: The RA Process and Rapid Diagnostic Tools*, IIED(International Institute for Environment and Development), London, UK

Parker, A.R., 1993, *Another Point of View: A Manual on Gender Analysis Training for Grassroots Workers*, United Nations Development Fund for Women, NY, USA

Parker,A.R., Lozano,I. and Messner,L.A., 1995, *Gender Relations Analysis: A Guide for Trainers*, Save the Children, CT, USA

Pretty,J.N., Guijt,I., Thompson,J. and Scoones,I., 1995, *A Trainer's Guide for Participatory Leading and Action*, IIED(International Institute for Environment and Development), London, UK

pla notes, iied(International Institute for Environment and development), London  
(Participation, Learning and Action (参加型学習と行動) Note. 年4回発行)

Scoones,I., Thompson,J. and Chambers, 1994, *Beyond Farmer First, Rural people's knowledge, agricultural research and extension practice*, International Technology Publications Ltd, London, UK

Srinivasan,L., 1990, *Tools for Community Participation, A Manual for Training Trainers in Participatory Techniques*, PROWESS/UNDP-World Bank Water and Sanitation Program, Washington D.C., USA

ウォーリング M., 篠塚英子訳, 1994, 『新フェミニスト経済学』東洋経済新報社,  
Waring,M.J., 1988, *If Women Counted: A New Feminist Economics*, Harper & Row, San Francisco  
開発援助のためのプロジェクト・サイクル・マネジメント

シヴァ V.,熊崎実訳,1994, 『生きる歓び-イデオロギーとしての近代化学批判』築地書館,  
東京, Shiva,V., 1988, *Staying Alive-Women, Ecology and Survival in India*

シヴァ V., 1997, 『生物多様性の危機』高橋由紀,戸田清訳,三一書房,東京, Shiva,V., 1992, *Monocultures of the Mind*

チェルニア M., 『開発は誰のために-援助の社会学・人類学』“開発援助と人類学”勉強会訳, 1998, 日本林業技術協会,東京 Cernea,M.M., 1985, 1991, *Putting People First: Sociological Variables in Rural Development, 2nd edition*, The International Bank for Reconstruction and Development/The World Bank Group,

チェンバース R.,徳積智夫,甲斐田万智子監訳,1998, 『第三世界の農村開発 貧困の解決 - 私たちにできること』明石書店,東京 *Rural Development: Putting the Last First*, 1983, Longman Scientific & Technical, England



# 索 引



## 索引

### アルファベット

<b>KJ法</b>	88
<b>Participatory Rural Appraisal(PRA)</b>	55, 57, 66, 85, 88, 106
<b>Rapid Rural Appraisal(RRA)</b>	26, 38, 42, 44, 88, 103
<b>TN法 (東北農試法)</b>	88
「WID配慮の手引書」	28

### あ行

アクセスとコントロール	10, 32, 42, 43, 44, 60, 62, 68, 82, 91, 94
アクセス及び管理、利用と管理、分配	
アクセスとコントロール分析	60
アクセス	7, 15, 16, 17, 86, 92, 96, 99
意思決定、意思決定への女性の参画	10, 14, 33, 34, 35, 42, 76, 77, 77, 82, 94
エンパワーメント	5, 11, 33, 35, 83, 103, 107

### か行

グループインタビュー、 グループディスカッション	38, 44
合意形成、合意形成手法	83, 88
国連婦人の十年	9
コンサルテーション	4, 28, 105
意見聴取、意見の把握	

### さ行

再生産活動	9, 10, 14, 32, 60
債務危機	11
在来知識、在来技術	4, 5, 18, 19, 82, 96, 105
参加型開発	11, 35, 36
参加型手法、住民の主体による手法	5, 40, 43, 55-59, 65, 69, 85, 92, 97, 98, 103, 103, 104, 105, 106-107
持続的地域開発、持続的な開発	10, 43, 46, 75, 76, 78
持続的農業	
農業の持続性、持続的な農林業開発、持続的 な資源管理	10, 18, 46

質問票の設計	38, 50-54
質問項目の設定、調査内容の設計	
指標	24, 40, 42, 50, 57, 90, 91, 92, 97, 98, 100, 101, 102
社会/ジェンダー分析	38, 60-65, 82
ハーバード方式	60
ジェンダープランニング	60, 62
社会構造	4, 24, 26, 35, 38, 43, 46, 66, 70, 73, 75, 77, 99
社会経済階層、社会経済グループ	
社会的緊張	75
住民組織化	26, 76
集落点検地図	88
受益集団	73, 75
小規模融資プログラム、小規模金融	11, 15, 83, 98
女性グループ	76
女性世帯主世帯	16, 52, 63
女性の三重の負担、女性の三種類の役割	9, 14, 32
所得創出活動	32, 33, 75
経済的自立	11
事例調査	38, 42, 50, 57, 59
生活改善活動	36, 84
生活資源カタログ	47, 48, 59, 84
生活の最小単位	46
生活の成り立ち	37, 38, 42, 44, 46, 57, 66, 68, 104
生産活動	9, 10, 14, 32, 60
絶対的貧困	11, 17

た 行
-----

ターゲット・グループ	26, 73, 75
地域社会、コミュニティ	5, 7, 14, 21, 32, 33, 34, 35, 36, 42, 46, 47, 49, 50, 56, 57, 62, 68, 73, 74, 75, 76, 77, 79, 83, 96, 99
地域社会開発	30, 33
地域社会活動	9, 14, 32, 60
中間評価	23, 26
定性的な調査	37, 40, 42-49, 50, 57, 59, 60, 65, 104
定量的な調査	37, 38, 40, 50, 65, 104



な行

ナショナル・マシーナリー	30, 31
ニーズ、開発ニーズ	3, 5, 9, 22, 24, 26, 28, 34, 37, 40, 46, 50, 55, 59, 62, 65, 66, 69, 77, 80, 85, 96, 99, 104, 105
ニーズ調査、ニーズアセスメント、 ニーズの把握と分析	27, 38, 39, 66-71
ニーズランキング	69, 70
農村生活総合調査	26, 27, 38, 42, 44, 50, 82, 88

は行

バタンランゲージ	88
半構造的インタビュー	44
評価	27, 40, 42, 50, 89-109
評価グリッド	103
貧困層、貧困者、社会的弱者	5, 21, 40, 43, 46, 55, 62, 63, 66, 68, 77, 92, 96, 99, 108, 109
貧困の女性化	17, 17
貧富ランキング	57, 68, 98
ファシリテーション・グラフィックス	88
ファシリテータ	55, 56
フィードバック	92
普及活動	80, 81, 82
プロジェクト・サイクル・マネジメント、 <b>JPCM</b>	24, 34, 93, 108-109
<b>PDM</b>	24, 108-109
<b>PCM</b> ワークショップ	24, 36, 58, 88
評価5項目	108-109
プロジェクトのインパクト、プロジェクトが 与えた影響、波及効果	89, 91, 94, 95, 103, 104, 106, 108
プロジェクトの持続性	6, 9, 33, 69, 92, 97, 108
プロモータ	80, 83, 99
ベースライン調査	26, 34, 42, 50, 50, 65, 102, 104

ま行

マチズモ	16, 74
メインストーリーミング	10
モニタリング	23, 26, 40, 42, 50, 89

わ行

ワークショップ

5, 34, 36, 56







JICA







# JICA's Challenges for Integrating WID/Gender Perspective into Agriculture, Forestry and Fisheries Sector



## JICA's Efforts to Integrate Gender Perspective into Agriculture, Forestry and Fisheries Sector

JICA has been working to enhance in quantity and improve in quality its assistance to developing countries, prioritizing gender issues. In 1990, JICA organized a study group to discuss how to incorporate WID/Gender considerations into JICA's aid, and "the Environment, WID and Other Global Issues Division" was established in 1991 as an engine for that effort.

Understanding the real situation of rural women in developing countries

To understand the real situation of rural women and the essential factors for gender consideration in rural development programs, JICA conducted series of studies and researches in agriculture, forestry and fisheries sector.

From these studies, although the woman's essential role in rural communities was highlighted, the great disparity between the genders in terms of on access to and control of resources was revealed. It became clear that basic data collection to understand social and gender structure was of utmost importance; a comprehensive approach is required in project planning to meet women's interests and needs.

Meeting women's practical need

In spite of limited access to and control over the resources, women work hard to maintain family life. They are in need of immediate support to meet their daily needs such as generating income, securing potable water and fuel, etc. JICA provides support to meet such practical needs.

Promoting equal participation by women and men

Besides meeting the woman's practical needs, it is important to promote equal participation in the development process. To equal participation, JICA has been applying a new approach in which rural women and men are directly targeted from the project design stage.

To secure participation, baseline survey with gender analysis in the project area is conducted. Project activities are planned reflecting the women's invisible roles and needs. Indigenous knowledge and technologies, passed on by women and previously overlooked, is being reevaluated and encouraged. To mainstream women into the development process, women's participation in decision making is encouraged through measures, such as a preset quota for women in the decision making body of the project.

Strengthening gender responsive extension services reflecting on Japan's experience

Institution building is important to enable institutions servicing rural people to become gender sensitive. In Japan, rural life improvement extension workers have been working with rural women to improve living standards. Through such activities, rural women have become more self confident and have sought to enhance the woman's position both in the household and community. Reflecting such experience in Japan, JICA is cooperating to improve the quality of the extension service in developing countries, shifting from a top-down style to a participatory one, so that better services are provided to empower rural women and men.

### JICA's Efforts for Integration of Gender Issues

- 1988-89 "Basic Survey for Planning of Living Standard Development Program in Rural Areas" carried out
- (1989 WID incorporated into resolutions of the Upper House concerning international cooperation)
- 1990-91 The Study Group on Development Assistance for Women in Development established.
- 1991 The Environment, WID and other Global Issues Division established
- 1991-95 "the Study on Technical Cooperation Toward Upgrading Technical Levels of Rural Women" Carried out
- 1992 "the Study on Gender Issues in Social Forestry" carried out
- 1993 Completion of WID Manual including guidelines and check-list
- 1993 the Study on Integration of Social/Gender Analysis in WID Concerned Project
- 1994 budget to dispatch WID experts for project design appropriated.
- (1995 "The Initiative on WID" put forward by the Government of Japan)
- 1996 "the Study on Supporting Organization for Gender Consideration in Rural Communities" carried out

(Bold: progress in Agricultural, forestry and fishery sector)

- ← 1975 International Women's Year, The World Conference on Women (in Mexico city)
- ← 1985 The World Conference to Review and Appraise the Achievement of the United Nations Decade for Women.
- ← 1989 OECD WID Guiding Principles revised

- ← 1995 The World Summit for Social Development  
The 4th World Conference on Women (in Beijing)

## JICA's Efforts to Integrate Gender Perspective into Agriculture, Forestry and Fisheries Sector

JICA has been working to enhance in quantity and improve in quality its assistance to developing countries, prioritizing gender issues. In 1990, JICA organized a study group to discuss how to incorporate WID/Gender considerations into JICA's aid, and "the Environment, WID and Other Global Issues Division" was established in 1991 as an engine for that effort.

### Understanding the real situation of rural women in developing countries

To understand the real situation of rural women and the essential factors for gender consideration in rural development programs, JICA conducted series of studies and researches in agriculture, forestry and fisheries sector.

From these studies, although the woman's essential role in rural communities was highlighted, the great disparity between the genders in terms of on access to and control of resources was revealed. It became clear that basic data collection to understand social and gender structure was of utmost importance; a comprehensive approach is required in project planning to meet women's interests and needs.

### Meeting women's practical need

In spite of limited access to and control over the resources, women work hard to maintain family life. They are in need of immediate support to meet their daily needs such as generating income, securing potable water and fuel, etc. JICA provides support to meet such practical needs.

### Promoting equal participation by women and men

Besides meeting the woman's practical needs, it is important to promote equal participation in the development process. To equal participation, JICA has been applying a new approach in which rural women and men are directly targeted from the project design stage.

To secure participation, baseline survey with gender analysis in the project area is conducted. Project activities are planned reflecting the women's invisible roles and needs. Indigenous knowledge and technologies, passed on by women and previously overlooked, is being reevaluated and encouraged. To mainstream women into the development process, women's participation in decision making is encouraged through measures, such as a preset quota for women in the decision making body of the project.

### Strengthening gender responsive extension services reflecting on Japan's experience

Institution building is important to enable institutions servicing rural people to become gender sensitive. In Japan, rural life improvement extension workers have been working with rural women to improve living standards. Through such activities, rural women have become more self confident and have sought to enhance the woman's position both in the household and community. Reflecting such experience in Japan, JICA is cooperating to improve the quality of the extension service in developing countries, shifting from a top-down style to a participatory one, so that better services are provided to empower rural women and men.

### JICA's Efforts for Integration of Gender Issues

- 1988-89 "Basic Survey for Planning of Living Standard Development Program in Rural Areas" carried out
- (1989 WID incorporated into resolutions of the Upper House concerning international cooperation)
- 1990-91 The Study Group on Development Assistance for Women in Development established.
- 1991 The Environment, WID and other Global Issues Division established
- 1991-95 "the Study on Technical Cooperation Toward Upgrading Technical Levels of Rural Women" Carried out
- 1992 "the Study on Gender Issues in Social Forestry" carried out
- 1993 Completion of WID Manual including guidelines and check-list
- 1993 the Study on Integration of Social/Gender Analysis in WID Concerned Project
- 1994 budget to dispatch WID experts for project design appropriated.
- (1995 "The Initiative on WID" put forward by the Government of Japan)
- 1996 "the Study on Supporting Organization for Gender Consideration in Rural Communities" carried out

(Bold: progress in Agricultural, forestry and fishery sector)

- ← 1975 International Women's Year. The World Conference on Women (in Mexico city)
- ← 1985 The World Conference to Review and Appraise the Achievement of the United Nations Decade for Women.
- ← 1989 OECD WID Guiding Principles revised

- ← 1995 The World Summit for Social Development The 4th World Conference on Women (in Beijing)

## Examples of Gender Integration into JICA Assistance

### *Baseline Surveys*

Comprehensive understanding of rural life is the first and most essential step for gender approach. The totality of rural life, gender differences in the division of labor, access to and control of resources etc. should be studied through both qualitative and quantitative surveys, including those based on a participatory approach.

In coordination with the "Community Development and Forest/Watershed Conservation Project in Nepal", a development survey was conducted to provide baseline data for the project. In this questionnaire survey, wives and husbands were interviewed respectively on their responsibilities and concerns.

In "the Training Services Enhancement Project for Rural Life Improvement in the Philippines", villagers participated in the Visioning Workshop to identify the key issues that should be advocated and solved, and to formulate a plan of their own. With the help of visual tools, such as drama, songs, and picture drawing, villagers actively participated and expressed their own opinions.



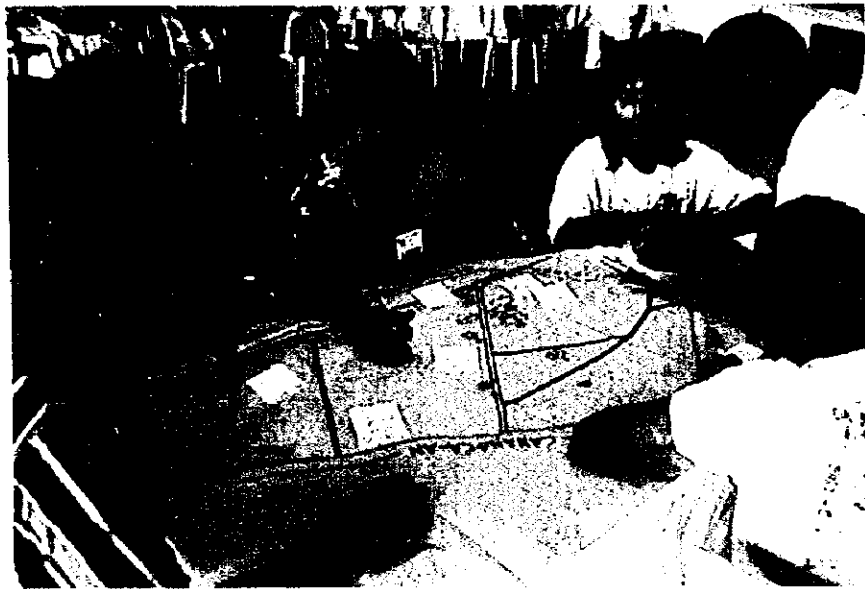
Holding a gourd capped with cow-dung to preserve seeds for the next season (Bangladesh).

(c) K. Yoshino

### *Encouraging Indigenous Knowledge and Technology*

Indigenous knowledge and technologies are well established in rural communities, and women play an important role in passing them onto future generations. Integration of such people's knowledge into the project is an important factor in spreading appropriate and well adapted technologies to all people.

The "Kilimanjaro Village Forestry Project in Tanzania" firstly provided seedlings of commercial timber for the villagers, but villagers' reaction to the species was less than satisfactory. As a result of interviewing the women, it became obvious that they preferred indigenous species, such as Neem, because of the multipurpose uses it can be put to. Thus the project added several indigenous species for nursery growing and distribution.



Village women and men participating in "Visioning Workshop" by TSEP. They are drawing the present situation in the community through discussion (Philippines)

### *Comprehensive Approach: Responding to the Both Genders' Needs of Rural Life*

Since rural life is composed of various aspects, such as on-farm production, off-farm income generation, domestic activities, and community activities, a comprehensive approach is needed. Needs in one sector may overlap with others in different sectors, and coordination among resources is important.

The first mandate of "Community Development and Forest/Watershed Conservation Project in Nepal" was forest/watershed conservation. But since forest/watershed conservation is deeply related to the lifestyle of the people in the area, the project was extended to cover other emergent men's and women's concerns such as income generation, road repair, literacy, community development through full participation by women and men.

In "the Training Services Enhancement Project for Rural Life Improvement in the Philippines", various both men's and women's needs were identified by the villagers. Since there is limited know-how, manpower and capital, the project liaises with other concerned agencies and the resourceperson for coordination.

## ***Promoting Women's Participation***

### ***Mainstreaming Women into the Development Process***

Rural women play an important role in their community, working hard to maintain their livelihood. Because of their busy schedules, women do not have enough time to attend meetings or training courses even for self improvement. They also often face cultural and social barriers when obtaining external services, or expanding their opinions. Mindful of such constraints, ways to facilitate real participation by women are sought and tried.

In the "Community Development and Forest/Watershed Conservation Project in Nepal", equal participation in the community projects was designed in. In the Operational Guidelines that were written up at the beginning of the project, equal participation for women is promised. Against the reality and tradition of communal decisions being made exclusively by men, it is crucial to persuade village leaders and menfolk, of the importance of women participating in that process. Where women faced difficulties, they organized separate groups to acquire the self-confidence and skills to express their own opinions. Since women's participation is a novel idea to the villagers, a quota system is introduced to secure seats in the decision making body of project beneficiaries for women. Through such experiences, the benefit of women's participation has come to be understood by both women and men.

In "the Project for Agricultural Development on Sloped Terrains in the Dominican Republic", women's roles and interests are taken into account from the project design stage. In designing total farming systems in the project area, the question of how to facilitate the participation of women in commercial crop production is carefully thought out. Not only commercial production, subsistence production is also taken into consideration in the project to respond to the women's concerns.

## ***Institution Building***

Extension workers are the closest agents for rural people. It is important that extension services reach the women and respond properly to their needs.

An expert on rural life improvement extension service was dispatched to the Rural Life Improvement Bureau in Syria to improve the quality of the extension service. Together with local staff, she conducted sample surveys to understand the real condition of rural life and women's needs, and held workshops to discuss the constraints and possibilities of the activities by the field staff, producing useful material for extension work.

JICA invites women officers in charge of extension for rural women in developing countries to the training course in Japan. Through field visits, lectures, workshops and discussions, the participants share their experiences and learn the importance of planning for extension activities from the grassroots level, reflecting women's needs.



A mother and her daughter carrying drinking water. She teaches her daughter the useful plants on the roadside during three hour's walk between the house and water source. Everyday life in the rural area is supported by such subsistence activities (Ghana).

(c) S. Tomita

### ***Meeting Women's Practical Needs***

For the empowerment of women, it is also important to respond their daily immediate needs, which not only ease their burden but also stabilize their livelihood.

In the "Southeast Sulawesi Integrated Rural Development Project in Indonesia", the irrigation program and several mini programs are setup to meet women's needs. Women formulate groups, to carry out food processing, marketing, kitchen gardening, etc.

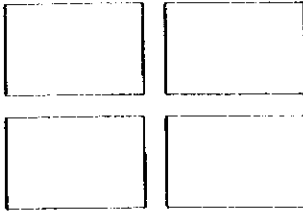
In "the Agricultural and Rural Development Project in Vientiane Province in Laos", in the discussion among women group members, the need to raise their own small livestock was identified. The project provided piglets and chicken in a revolving system as well as technical support.



Women organize themselves to discuss their problems and needs. Through such activities, they become more self-confident and empowered (Nepal).

(c) H. Hatanaka

Photos on the front page



Photos 1,2 (c) Rural Life Research Institute  
Photo 4 (c) S.Tomita

1. Women selling their handmade cakes in the local market (Indonesia).
2. Women cultivating fields in groups. Since the Land Reform, women can own the land in the name of a group (Honduras).
3. Village youth presenting through songs and drama their village development plan, which drawn up by themselves (the Philippines).
4. Women group of the pastoral Maasai. They borrow land from men in the community, to grow vegetables, earning their own income for the first time. Most of income is spent on children's education, and a little on a lipstick (Kenya).



Japan  
International  
Cooperation  
Agency



---

Agricultural Development Cooperation Department  
Forestry and Fisheries Development Cooperation Department  
Agriculture, Forestry and Fisheries Development Study Department

---

Shinjuku Maynds Tower Building 1-1 Yoyogi 2-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8558 Japan

Tel: +81-3-5352-5311

URL: <http://www.jica.go.jp>

